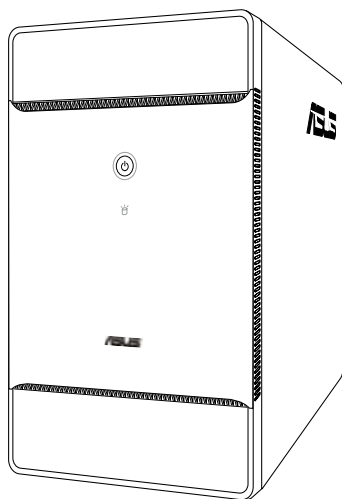


ASUS[®]

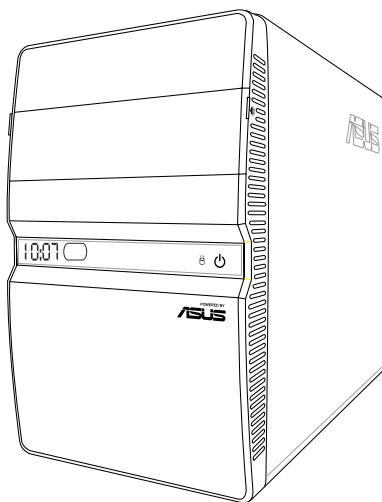
T-シリーズ

M3N8200

ASUS PC (デスクトップ ベアボーン)



T3-M3N8200



T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 /
赤外線 LED を搭載しています。

J3546

初版

2008年 4 月

Copyright © 2008 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、保証やサービスを受けることができません。

- (1) ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理店は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理店は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

もくじ	iii
ご注意	vi
安全上のご注意	vii
このマニュアルについて.....	viii
パッケージ内容	x

Chapter 1: システムの概要

1.1 ようこそ	1-2
1.2 フロントパネル (外部と 内部)	1-2
1.3 リアパネル.....	1-5
1.4 内部コンポーネント	1-7

Chapter 2: 基本取り付け

2.1 準備	2-2
2.2 始める前に	2-2
2.3 カバーを取り外す	2-3
2.4 電源装置を移動する.....	2-4
2.5 中央演算処理装置(CPU).....	2-5
2.5.1 概要	2-5
2.5.2 CPUを取り付ける	2-5
2.5.3 ヒートシンクとファンを取り付ける	2-7
2.6 メモリを取り付ける.....	2-9
2.6.1 メモリ構成.....	2-9
2.6.2 メモリを取り付ける	2-11
2.7 拡張カードを取り付ける	2-12
2.7.1 拡張スロット	2-12
2.7.2 拡張カードの取り付け	2-13
2.8 光学ドライブを取り付ける	2-14
2.9 Serial ATA ディスクドライブを取り付ける	2-15
2.10 電源装置を再び取り付け.....	2-16
電圧セクター	2-16
2.11 カバーを再び取り付け	2-17

Chapter 3: 起動

3.1 OSをインストールする.....	3-2
3.2 起動する.....	3-2

もくじ

3.3	サポートCD 情報	3-3
3.3.1	サポートCDを実行する	3-3
3.3.2	ドライバメニュー	3-4
3.3.3	ユーティリティメニュー	3-5
3.3.4	コンタクトインフォメーション	3-6

Chapter 4: マザーボード情報

4.1	マザーボードの概要	4-2
4.2	マザーボードのレイアウト	4-2
4.3	ジャンパ	4-3
4.4	コネクタ	4-6

Chapter 5: BIOS のセットアップ

5.1	BIOS 管理更新	5-2
5.1.1	ASUS EZ Flash 2	5-3
5.1.2	AFUDOS	5-4
5.1.3	ASUS CrashFree BIOS 3	5-6
5.1.4	ASUS Update	5-8
5.2	BIOS 設定プログラム	5-11
5.2.1	BIOSメニュー画面	5-12
5.2.3	ナビゲーションキー	5-12
5.2.2	メニューバー	5-12
5.2.4	メニュー	5-13
5.2.5	サブメニュー	5-13
5.2.6	構成フィールド	5-13
5.2.7	ポップアップウィンドウ	5-13
5.2.8	スクロールバー	5-13
5.2.9	ヘルプ	5-13
5.3	メインメニュー	5-14
5.3.1	System Time [xx:xx:xx]	5-14
5.3.2	System Date [Day xx/xx/xxxx]	5-14
5.3.3	IDE Configuration	5-14
5.3.4	Primary and SATA IDE Master/Slave	5-15
5.3.5	システム情報	5-17
5.4	拡張メニュー	5-17

もくじ

5.4.1	Jumperfree Configuration	5-18
5.4.2	CPU の設定	5-20
5.4.3	チップセット	5-21
5.4.4	オンボードデバイス設定構成	5-25
5.4.5	USB 設定	5-26
5.5	電源メニュー	5-27
5.5.1	Suspend Mode [Auto]	5-27
5.5.2	Repost Video on S3 Resume [No]	5-27
5.5.3	ACPI Version Feature [Disabled]	5-27
5.5.4	ACPI APIC Support [Enabled]	5-27
5.5.5	APM の設定	5-28
5.5.6	ハードウェアモニタ	5-29
5.6	ブートメニュー	5-30
5.6.1	ブートデバイスの優先順位	5-30
5.6.2	起動設定	5-30
5.6.3	セキュリティ	5-32
5.7	ツールメニュー	5-34
5.7.1	ASUS EZ Flash 2	5-34
5.7.2	LED Poster Configuration	5-34
5.7.3	AI NET2	5-35
5.7.4	ASUS O.C. Profile	5-36
5.8	終了メニュー	5-37

参考

A.1	電源装置の仕様	A-2
A.2	デバッグコード表	A-2
A.3	Media Center リモコンを使用する(オプション)	A-3

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



WARNING! The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Macrovision Corporation Product Notice (原文)

This product incorporates copyright protection technology that is protected by method claims of certain U.S. patents and other intellectual property rights owned by Macrovision Corporation and other rights owners. Use of this copyright protection technology must be authorized by Macrovision Corporation, and is intended for home and other limited viewing uses only unless otherwise authorized by Macrovision Corporation. Reverse engineering or disassembly is prohibited.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。本製品は安定した場所に設置してください。
- 本製品をご使用の際は、ケースの通気孔を塞がないでください。
- 周囲温度が35℃以下の環境でご使用ください。
- 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。

リチウムイオンバッテリー

CAUTION: Danger of explosion if battery is incorrectly replaced. Replace only with the same or equivalent type recommended by the manufacturer. Dispose of used batteries according to the manufacturer's instructions.

VORSICHT: Explosionsgefahr bei unsachgemäßen Austausch der Batterie. Ersatz nur durch denselben oder einem vom Hersteller empfohlenem ähnlichen Typ. Entsorgung gebrauchter Batterien nach Angaben des Herstellers.

レーザー製品

クラス 1 レーザー製品

このマニュアルについて

対象読者

本書は、本製品に関する全般情報とインストールの指示について説明しています。本書は上級ユーザーを対象にしています。

本書の構成

本書は次の章から構成されています。

1. Chapter 1: システムの概要

本製品の概要。フロントパネルとリアパネル、および内部コンポーネントなどの、システムの各機能を紹介します。

2. Chapter 2: 基本取り付け

システムのコンポーネントを取り付ける方法の説明です。

3. Chapter 3: 起動

システムの電源を入れ、サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法を説明します。

4. Chapter 4: マザーボード情報

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明です。

5. Chapter 5: BIOS のセットアップ

BIOSセットアップメニューでのシステム設定、変更方法、BIOSパラメータの説明です。

6. 参考

本システムがサポートしている電源装置の規格について。

このマニュアルの表記について



危険/警告: 本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意: 本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要: 本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記: 本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. ASUS Webサイト (<http://www.asus.co.jp/>)

各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

パッケージ内容

T-シリーズ M3N8200 のパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

パッケージの内容

1. ASUS T-シリーズ M3N8200 ベアボーンシステムの付属品

- ASUS マザーボード
- 250 W PFC 電源装置
- フロント I/O カード
- 6-in-1 ストレージカードリーダー

2. ケーブル

- AC 電源コード
- ATA ケーブル
- Serial ATA ケーブル
- Serial ATA 電源ケーブル

3. サポート CD

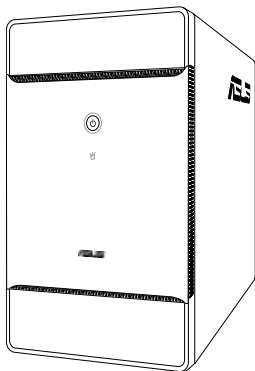
4. ユーザーマニュアル(本書)

5. オプション

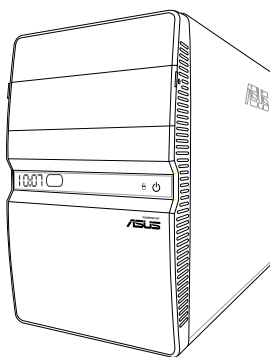
- テレフォンアダプタカード
- リモコン

Chapter 1

本製品の概要。フロントパネルとリア
パネル、および内部コンポーネント
などの、システムの各機能を紹介。



T3-M3N8200



T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 /
赤外線 LED を搭載しています。

1.1 ようこそ

ASUS T-シリーズ M3N8200 をお買い上げいただき、ありがとうございます。

ASUS T-シリーズ M3N8200は、パワフルで扱いやすいオールインワンベアボーンシステムです。

本システムはスタイリッシュなミニタワーケースを使用しており、マザーボードはASUS製のボードを搭載しています。このボードはAMD Athlon™ 64 X2/Athlon™ 64/Athlon™ FX/Sempron™ プロセッサに対応のAM2 ソケットを採用しており、FSB周波数は800/1000 MHz、システムメモリは最大8GBまでサポート可能です。

オーディオ機能、接続の拡張性、10/100M LAN を装備した T-シリーズ M3N8200 は多様なユーザーのニーズに応えます。

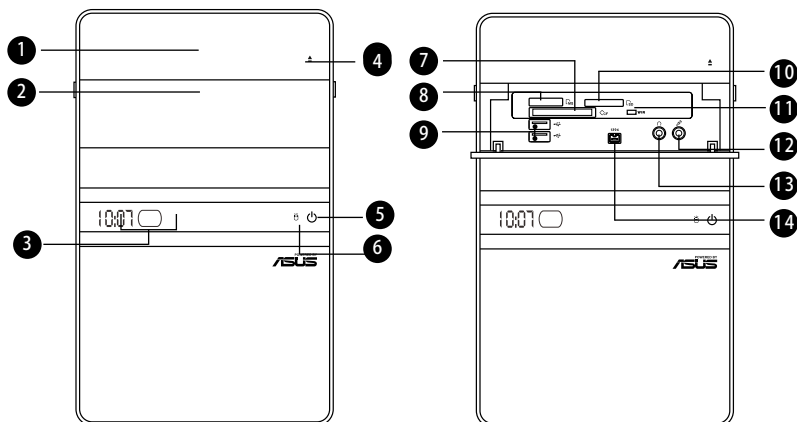
これらの優れた設計により、T-シリーズ M3N8200 は、多様なマルチメディアとコンピュータニーズに革新的技術を提供します。

1.2 フロントパネル (外部と 内部)

フロントパネルにはシステム及びオーディオコントロールボタン、LED、LEDパネルが組み込まれています。

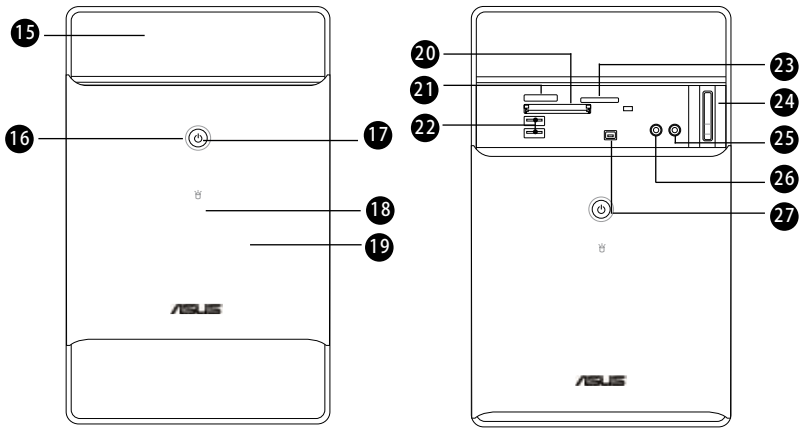
フロントパネルドアの内側には、光学ドライブ、各ストレージカードリーダー slots、各 I/O ポートが組み込まれています。



T4 シリーズ



1. **ドライブドア**: 光学ドライブ用です。
2. **フロントパネル I/O ドア**: I/O ポートを使用するときはこのカバーを開けます。
3. **時間表示 / 赤外線 LED** (オプション)
4. **イジェクトボタン** : このボタンを押すと、光学ドライブのトレイが開きます。
5. **電源ボタン** : このボタンでシステムのオン/オフを切り替えます。
6. **HDD LED** : このLED はハードディスクドライブからのデータの読み込み/書き込み中に点灯します。
7. **CompactFlash®/Microdrive™ カードスロット** : CompactFlash®/Microdrive™ ストレージカード用です。
8. **Memory Stick®/Memory Stick Pro™ カードスロット**: Memory Stick®/Memory Stick Pro™ ストレージカード用です。
9. **USB 2.0 ポート**  **2.0**: マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続することができます。
10. **Secure Digital™/MultimediaCard スロット**  **SD**: Secure Digital™/MultimediaCard ストレージカード用です。
11. **W/R LED** **W/R**: この LED はカードリーダーとデータの送受信を行うと点灯します。
12. **マイクポート (ピンク)** : マイクを接続します。
13. **ヘッドホンポート** : ヘッドフォンを接続します。
14. **4 ピン IEEE 1394a ポート** **1394**: IEEE 1394a 対応オーディオ/ビデオデバイス、記憶装置、その他のPC デバイス用で、高速接続を実現します。

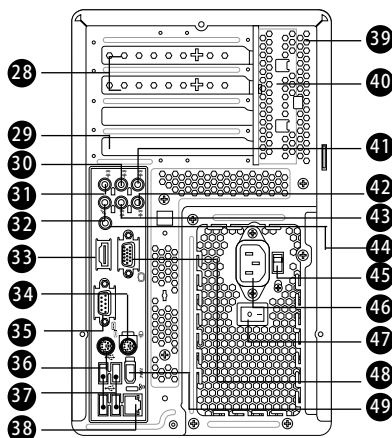
T3 シリーズ












15. ドライブドア: 光学ドライブ用です。
16. 電源ボタン : このボタンを押すと、システムの電源がオンになります。
17. HDD LED : このLED はハードディスクドライブからのデータの読み込み/書き込み中に点灯します。(ブラックベゼル)
18. HDD LED : このLED はハードディスクドライブからのデータの読み込み/書き込み中に点灯します。(シルバーベゼル)
19. フロントパネル I/O ドア: 入力/出力ポート 用のカバーです。開く際は、このドアを押し下げます。
20. CompactFlash®/Microdrive™ カードスロット : CompactFlash®/Microdrive™ ストレージカード用です。
21. Memory Stick®/Memory Stick Pro™ カードスロット: Memory Stick®/Memory Stick Pro™ ストレージカード用です。
22. USB 2.0 ポート  2.0: マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続することができます。
23. Secure Digital™/MultimediaCard スロット : Secure Digital™/MultimediaCard ストレージカード用です。
24. イジェクトボタン: このボタンを押すと、光学ドライブのトレイが開きます。
25. マイクポート (ピンク) : マイクを接続します。
26. ヘッドホンポート : ヘッドフォンを接続します。
27. 4 ピン IEEE 1394a ポート  IEEE 1394a 対応オーディオ/ビデオデバイス、記憶装置、その他のPC デバイス用で、高速接続を実現します。

1.3 リアパネル

電源コネクタとI/O ポートが搭載されており、各デバイスを簡単に接続することができます。



- 28. **拡張スロットカバー**: 拡張カードを取り付ける際にこのカバーを取り外します。
- 29. **拡張スロット**: 拡張カードを取り付けます。
- 30. **リアサラウンドスピーカーポート**: HD 6 チャンネルスピーカーを接続します。
- 31. **サイドサラウンドスピーカーポート**: HD 6 チャンネルスピーカーを接続します。
- 32. **マイクポート (ピンク)** : マイクを接続します。4/6チャンネルモードでは、このポートはLFE出力/センター/サブウーファとなります。
- 33. **HDMI ポート**: このポートはHDMI (High-Definition Multimedia Interface) コネクタ用です。HDCP対応ですので、HD DVDやBlu-ray、その他保護コンテンツの再生が可能です。
- 34. **PS/2 マウスポート (グリーン)** : この6ピンコネクタは、PS/2 マウス用です。
- 35. **COM ポート** : シリアル規格に対応したマウス、モデム、その他のデバイスを接続することができます。
- 36. **PS/2 キーボードポート (パープル)** : PS/2 キーボード用です。
- 37. **USB 2.0 ポート**  **2.0**: マウス、プリンタ、スキャナー、カメラ、PDA等の USB 2.0 対応デバイスを接続することができます。

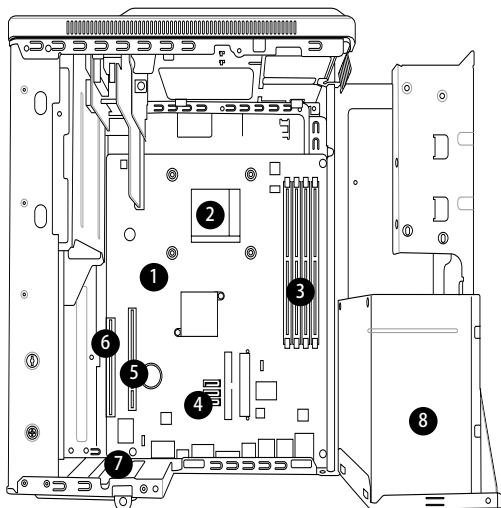
- 38. **LAN ポート**:ネットワークハブを介し、LAN に 接続することができます。
- 39. **通気孔**:システムケース内部を冷却するファン用です。
- 40. **拡張カードロック**:取り付けた拡張カードを固定します。詳細はページ 2-13 をご参照ください。
- 41. **センター & ウーファスピーカー**:センター/サブウーファスピーカーを接続します。
- 42. **ライン入力ポート (ライトブルー)** :テーププレーヤーや他のオーディオソースを接続します。6 チャンネルモードでは、このポートはサラウンド出力になります。
- 43. **ライン出力ポート (ライム)** :ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4/6 チャンネルモードでは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
- 44. **コアキシャル S/PDIF 出力ポート**:コアキシャル S/PDIF ケーブルを使用して外部オーディオ出力デバイスを接続します。
- 45. **電圧セレクター**:お使いのエリアの供給電圧に応じ、システム入力電圧を調節することができます。
- 46. **電源コネクタ**:電源ケーブルを接続します。
- 47. **電源スイッチ**:PC の電源をオン/オフにします。
- 48. **VGA ポート** :このポートはVGAモニタを接続します。
- 49. **6 ピン IEEE 1394a ポート** :IEEE 1394a 対応オーディオ/ビデオデバイス、記憶装置、その他のPC デバイス用で、高速接続を実現します。

1.4 内部コンポーネント

下の図は、トップカバーと電源装置を取り外した時の内部構造です。取り付けるコンポーネントには、参照用に番号を表示しました。追加システムコンポーネントの取り付けに関する詳細は、Chapter2 をご覧ください。



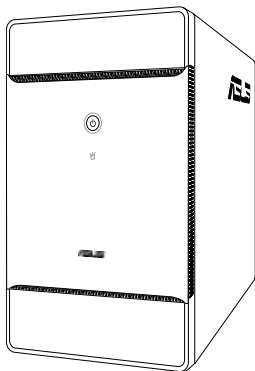
下の図は、ケースを垂直にし、カバーを開けた状態です。



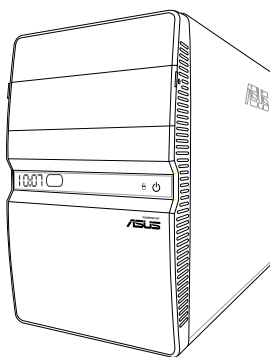
1. ASUS マザーボード
2. AM2 ソケット
3. メモリスロット
4. Serial ATA コネクタ
5. 個別のビデオカード用PCI Express™ x16 スロット
6. LAN カードを取り付けた PCI スロット
7. 拡張カードスロット
8. 電源装置

Chapter 2

システムのコンポーネントを取り
付ける方法について



T3-M3N8200



T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 /
赤外線 LED を搭載しています。

基本取り付け

2.1 準備

取り付ける前に、全てのコンポーネントが揃っているか確認してください。

取り付ける基本コンポーネント

1. CPU
2. DDR2 メモリ
3. 拡張カード
4. ハードディスクドライブ
5. 光学ドライブ

工具

Philips スクリュードライバ

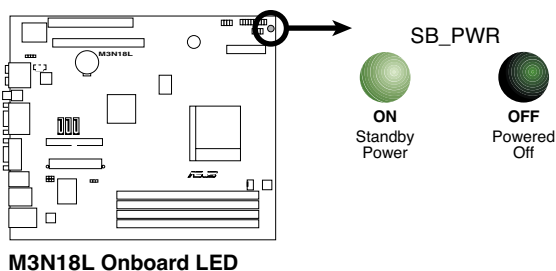
2.2 始める前に

コンポーネントをシステムに取り付ける前に次の事項に留意してください。



- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置か、コンポーネントに付属する袋に入れてください。

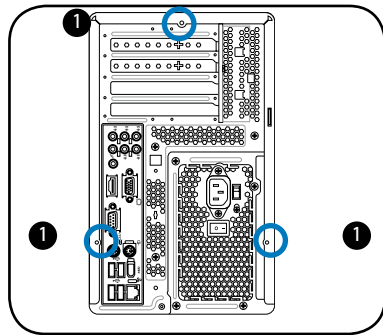
本マザーボードにはスタンバイLED が搭載されており、電力が供給されている間は緑のLEDが点灯します。マザーボードに各パーツを取り付け・取り外しを行う際は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードLEDの場所を示しています。



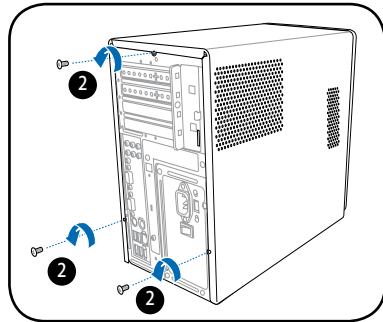
2.3 カバーを取り外す

手順

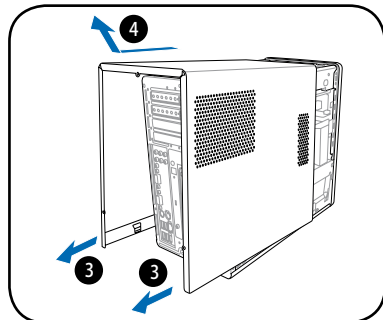
1. リアパネルで、カバーをケースに固定している3本のネジの位置を確認します。



2. Phillips スクリュードライバで、カバー用ネジを取り外します。ネジは大切に保管してください。



3. サイドタブがケースから外れるまでカバーをリアパネルの方に慎重に引きます。
4. カバーを持ち上げシステムから外し、脇に置きます。

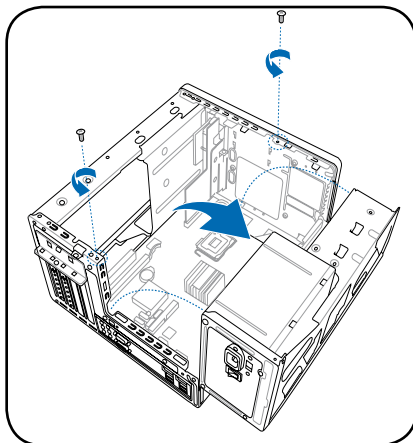


2.4 電源装置を移動する

CPU 及び他のシステムコンポーネントを取り付ける前に、電源装置を移動する必要があります。

手順

1. システムを図のようにデスクなどの安定した平面上に水平に慎重に倒します。
2. 電源装置をケースに固定している 2 本のネジを外します。
3. 矢印の方向に電源装置を 90° ほど持ち上げ移動します。



電源装置を持ち上げる際は、落さないようしっかり手で支えてください。落とした場合、その衝撃によりシステムコンポーネントの破損の原因となることがあります。

2.5 中央演算処理装置(CPU)

2.5.1 概要

マザーボードには、AMD Athlon™ 64 X2 / Athlon™ 64 / Sempron™ プロセッサ用に設計された940ピン・AM2ソケットが付属しています。

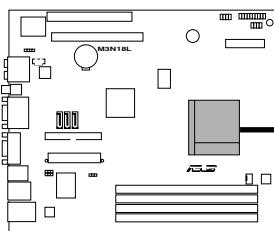


AM2ソケットには、AMD Opteron™ プロセッサ用に設計された940ピン・ソケットとは異なるピン出力が付いています。AM2ソケット用に設計されたCPUを使用していることを確認してください。CPUファンは、1方向にのみ嵌め込みます。CPUのピンが曲がる原因となるため、CPUをソケットに無理に差し込まないでください。

2.5.2 CPUを取り付ける

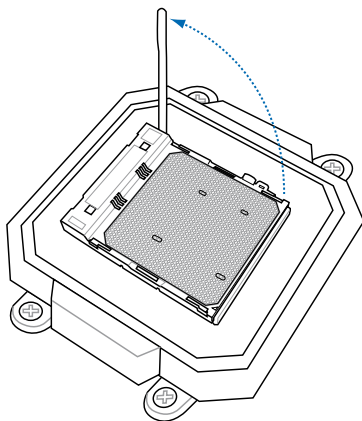
CPUを取り付けるには、次の手順に従います。

1. マザーボードでAM2 CPUソケットを探します。

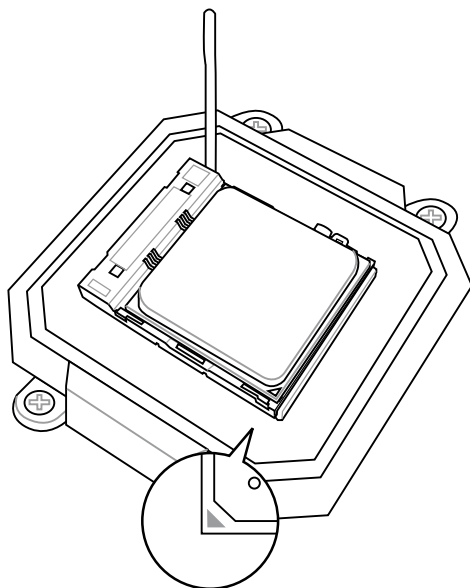


M3N18L CPU Socket AM2

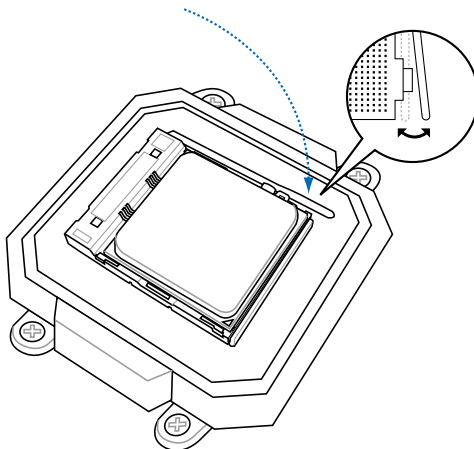
2. CPUソケットレバーを横に押して、90°-100°の角度まで持ち上げます。



3. CPUの金色の三角形を、ソケットの小さな三角形に合わせます。CPUが適切な位置に納まるまでソケットに挿入します。



4. ソケットレバーを押して下げてCPUを固定します。



CPUファン、ブローワーおよびヒートシンク・アセンブリがCPUの上部に取り付けられていることを確認します。

2.5.3 ヒートシンクとファンを取り付ける



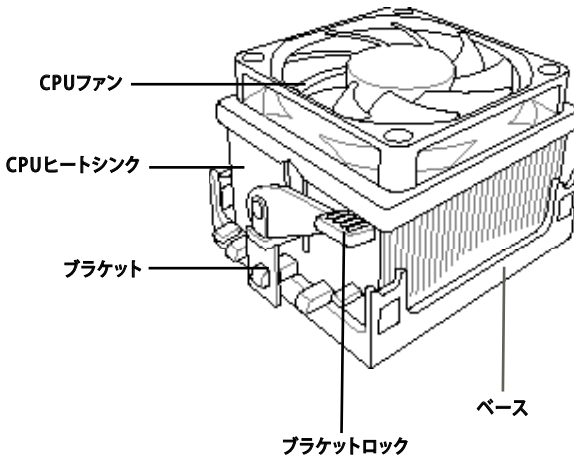
AMD公認のヒートシンクとファンのみをご使用ください。

手順

1. ヒートシンクとベースの位置が合うように、取り付けたCPUの上にヒートシンクを載せます。

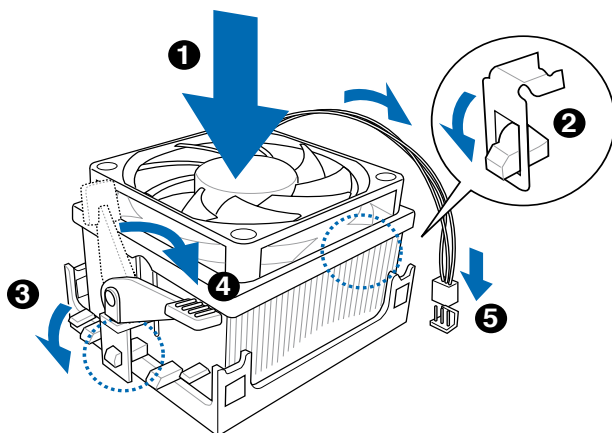


- ベースはマザーボードに既に装着されています。
- CPUまたは他のパーツを取り付ける際、ベースを取り外す必要はありません。
- CPUヒートシンクとファンを別個に購入した場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリース等がCPUヒートシンクまたはCPUに塗布されていることを確認してください。



箱入りのCPUヒートシンクとファンには、取り付け方法を記載した説明書等が通常付属しています。本書と内容が異なる場合は、付属の説明書等の指示に従ってください。

2. ブラケットの一方をベースにかぶせます。



3. ブラケットのもう一方を(ブラケットロックに近い方)ベースにはめます。所定の位置に収まると音がします。



ヒートシンクとファンがベースにしっかりはまっていることを確認してください。はまっていないと、ブラケットが所定の位置に固定されません。

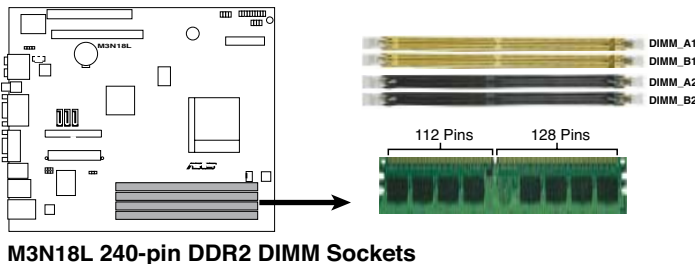
4. ブラケットロックを押し下げ、ヒートシンクとファンをベースに固定します。
5. ファンのケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボード上のコネクタに接続します。



必ずCPUファンに接続してください。接続しないとハードウェアモニタリングエラーが発生することがあります。

2.6 メモリを取り付ける

マザーボードには、DDR2 メモリスロットが 2 基実装されています。
次の図は、スロットの場所を示しています。



2.6.1 メモリ構成

256 MB、512 MB、1GB、2GB DDR2 メモリを使用して最大 8 GBのシステムメモリを取り付けることができます。



- 推奨されている構成以外の DDR メモリの取り付けは、メモリのサイズのエラー、システム起動の失敗につながることがあります。メモリ構成の際は、下の表(推奨メモリ構成)に照らしてメモリ構成を行ってください。
- DIMM_A1 と DIMM_B1 には**必ず同一の**(タイプとサイズが同じもの) DDR2 メモリを取り付けてください。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- チップセットの割り当てにより、1 GB DDR2 メモリを 2 枚取り付けても、システムは 1 GB 未満のシステムメモリしか認識しません。
- 本マザーボードは128 Mbit のメモリチップを搭載したメモリモジュールは動作保証致しかねます。また、ダブルサイド x16 メモリをサポートしていません。

推奨メモリ構成

モード	スロット			
	DIMM_A1	DIMM_A2	DIMM_B1	DIMM_B2
シングルチャンネル	使用	-	-	-
	-	使用	-	-
	-	-	使用	-
	-	-	-	使用
デュアルチャンネル(1)	使用	-	使用	-
	-	使用	-	使用
デュアルチャンネル(2)	使用	使用	使用	使用

メモリの QVL (推奨ベンダーリスト) DDR2 (800 MHz)

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	SS/DS	コンポーネント	メモリサポート		
						A*	B*	C*
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	N/A	DS	KHX6400D2LL/1G	V		
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	N/A	SS	KHX6400D2LLK2/1GN	V	V	V
1024MB	KINGSTON	V59C1512804QBF25	N/A	DS	KVR800D2N5/1G	V		
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	N/A	SS	KHX6400D2ULK2/1G	V	V	
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	N/A	SS	HYS64T64000HU-25F-B	V	V	V
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	N/A	DS	HYS64T128020HU-25F-B	V	V	
2048MB	Qimonda	HYB18T1G800C2F-25F	Qimonda	DS	HYS64T256020EU-25F-C2	V		
512MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	Hynix	SS	HYMP564U64CP8-S5	V	V	
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	Hynix	DS	HYMP564U64CP8-S5	V		
512MB	MICRON	D9GKX	N/A	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	V	V	
1024MB	MICRON	D9GKX	N/A	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	V	V	V
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	N/A	DS	CM2X1024-6400C4	V	V	
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	N/A	DS	BL12864AA804.16FD	V		
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	N/A	DS	BL12864AL804.16FD3	V	V	
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	N/A	DS	BL12864AA804.16FD3	V	V	
512MB	Apacer	Heat-Sink Package	N/A	DS	AHU512E800C5K1C	V		
512MB	Apacer	Heat-Sink Package	N/A	DS	AHU01GE800C5K1C	V		
512MB	Apacer	Heat-Sink Package	Apacer	DS	78.A1GA0.9K4	V		
512MB	A-DATA	AD29608A8A-25EG	N/A	SS	M2OAD6G3H3160G1E53	V	V	V
1024	A-DATA	AD26908A8A-25EG	N/A	DS	M2OAD6G3J4170H1E58	V		
512MB	KINGMAX	KKA8FEIBF-HJK-25A	KINGMAX	SS	KLDC28F-A8KI5	V		
1024MB	KINGMAX	KKA8FEIBF-HJK-25A	KINGMAX	DS	KLDD48F-ABKI5	V	V	V
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	N/A	SS	T800UA12C4	V	V	
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	N/A	DS	T800UB1GC4	V		
512MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	NANYA	SS	NT512T64U880BY-25C	V	V	
1024MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	NANYA	DS	NT1GT64U8HB0BY-25C	V		
1024MB	NANYA	NT5TU64M8CE-25D	NANYA	DS	NT1GT64U8HCOBY-25D	V	V	
512MB	PSC	A3R12E3HEF641B9A05	N/A	PSC	AL6E8E63B8E1K	V	V	
1024MB	PSC	A3R12E3HEF641B9A05	N/A	PSC	AL7E8E63B-8E1K	V		
256MB	TwinMOS	E2508AB-GE-E	ELPIDA	SS	8G-24IK2-EBT	V	V	
1024MB	Elixir	N2TU51280BE-25C	Elixir	DS	M2Y1G64TU8HB0B-25C	V	V	V



サイド: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド メモリサポート

- **A*:** シングルチャンネルメモリ構成として、1 枚のメモリを任意のスロットに取り付けることが可能。
- **B*:** 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリをイエローのスロットまたはブラックのスロットに取り付けることが可能。

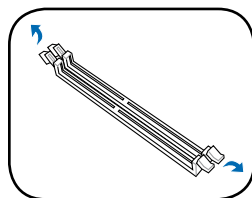


最新の DDR2-667/800 MHz QVL は、ASUS の Web サイト (<http://www.asus.co.jp/>) をご参照ください。

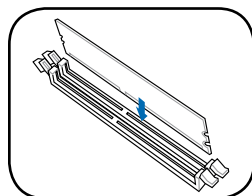
2.6.2 メモリを取り付ける

手順

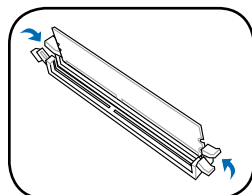
1. メモリスロット(×4)の位置を確認します。
2. クリップを外側に押し、スロットのロックを解除します。



3. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。



4. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



DDR 2メモリは取り付けの向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。

2.7 拡張カードを取り付ける

拡張カードを取り付ける場合は、このセクションに書かれている 拡張スロットに関する説明をお読みください。本マザーボードはPCI スロットとPCI Express™ x16 スロットを各1基搭載しています。

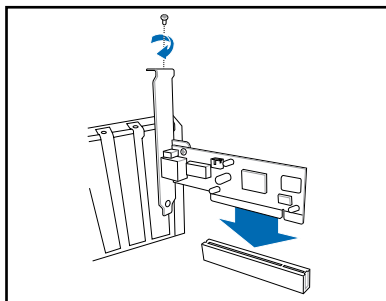


拡張カードを追加したり取り外したりする前に、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷をしたり、マザーボードコンポーネントが損傷したりする恐れがあります。

2.7.1 拡張スロット

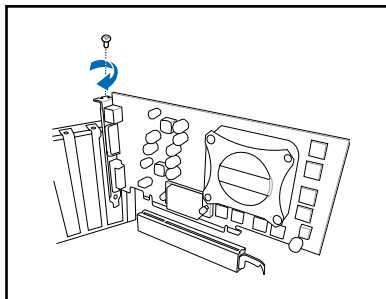
PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。図はLAN カードを取り付ける際のものであります。



PCI Express™ x16 スロット

本マザーボードは PCI Express™ 規格準拠の PCI Express™ x16 ビデオカードをサポート可能です。図はビデオカードを取り付ける際のものであります。

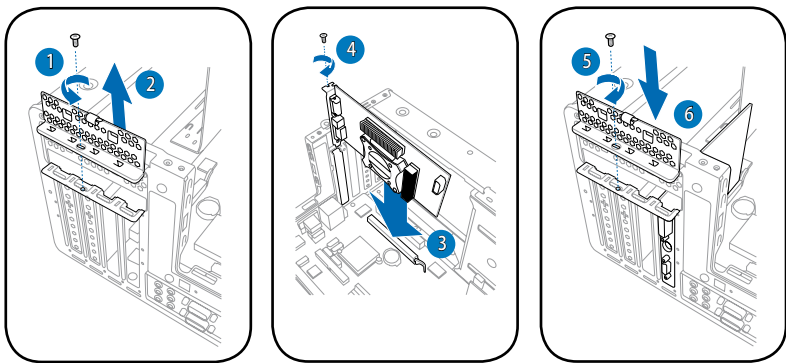


本ケースに取り付け可能な PCI Express x 16 カードのサイズは 192mm x 19mm 以下となっております。カードご購入の際はご注意ください。

2.7.2 拡張カードの取り付け

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. 金属ブラケットロックネジを外します。
3. 金属ブラケットロックを取り外します。
4. カードコネクタとスロットの位置を合わせ、しっかり押し込みます。
5. カードをネジ(×1)で固定します。
6. 金属ブラケットロックを元に戻し、ネジ(×1)で固定します。



標準の割り込み割り当て

IRQ	標準機能
0	システムタイマー
1	キーボードコントローラ
2	プログラム可能 割り込み
4	通信ポート (COM1)
6	フロッピーディスクコントローラ
7*	プリンターポート (LPT1)
8	システム CMOS/リアルタイムクロック
9*	ACPI モード(使用する場合)
10*	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ
11*	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ
12*	PS/2 互換 マウスポート
13	数値データプロセッサ
14*	プライマリ IDE チャンネル

* これらのIRQは、通常ISAデバイスまたはPCIデバイスで利用できます。

本マザーボード用のIRQ割り当て

	PCI Slot	PCIe X16 スロット	USB 1.1 (OHCI)	USB 2.0 (EHCI)	USB1 1.1 (OHCI)	USB1 2.0 (EHCI)	HDA (AZALIA)	SB 内部 GPU	SATA コントローラ	PCI 1394	Marvell LAN_8056
LNKA											
LNKB	共有										
LNKC										共有	
LNKD											
LN0A		共有									
LN0B		共有									
LN0C		共有									
LN0D		共有									
LN2A											共有
LN2B											共有
LN2C											共有
LN2D											共有
SGRU								共有			
LUB0			共有								
LUB2				共有							
UB11					共有						
UB12						共有					
LSA0									共有		
LAZA							共有				



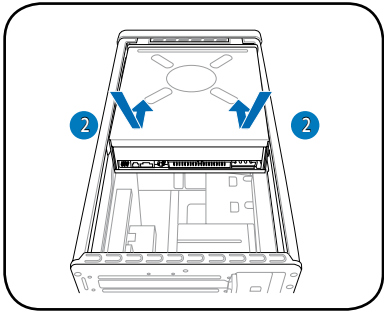
PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバがIRQの共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなる場合があります。

2.8 光学ドライブを取り付ける

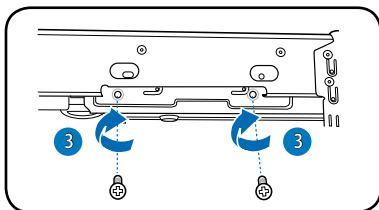
システムには光学ドライブ用に 5.25 インチドライブベイが搭載されています。

手順

1. ケースを図のように垂直に置きます。
2. 光学ドライブを上にある5.25 インチドライブベイに挿入します。次にドライブのネジ穴とベイのネジ穴の位置が合うよう、ドライブをゆっくりベイに入れてください。



3. 4本のネジをベイの両サイドに入れ、光学ドライブをベイに固定します。
4. IDE プラグと電源プラグをドライブ背面にあるコネクタに接続します。

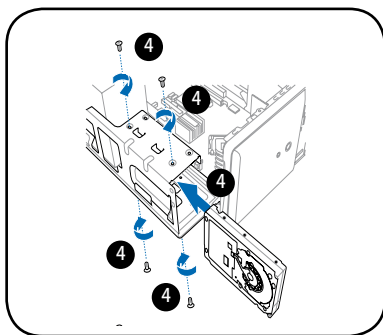
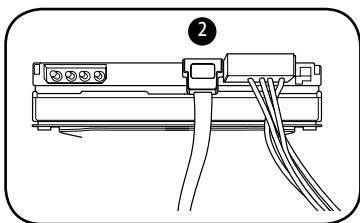
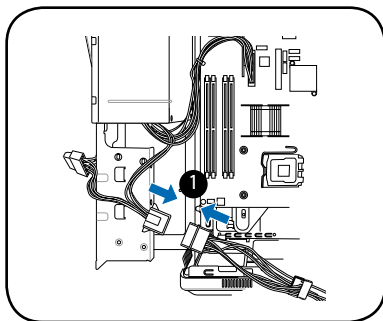


2.9 Serial ATA ディスクドライブを取り付ける

本システムは Serial ATA ハードディスクドライブを 1 台サポートしています。

手順

1. SATA 電源ケーブルを電源装置のプラグに接続します。
2. SATA ケーブルと電源プラグをドライブ背面にあるコネクタに接続します。
3. HDDトレイの位置を確認します。
4. HDD PCB がケースの上部を向くよう、ハードディスクドライブをトレイに挿入し、4本のネジで固定します。
5. SATA ケーブルをマザーボードの SATA コネクタに接続します。プラスチックコイルでケーブルを全て束ねます。

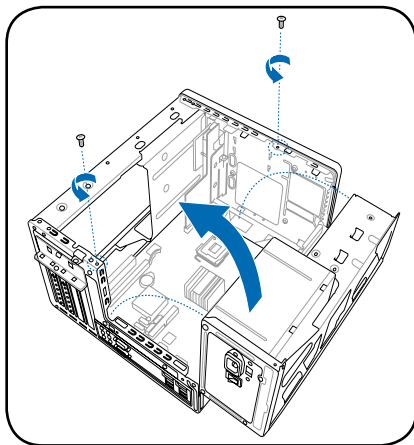


2.10 電源装置を再び取り付ける

システムコンポーネントを取り付け、各ケーブルを再び接続したら、電源装置を元に戻します。

手順

1. 4ピン 12V 電源プラグをマザーボードのATX12V コネクタに接続します。
2. 24ピン ATX 電源プラグをマザーボードの ATXPWR コネクタに接続します。
3. 光学ドライブ電源コネクタを接続します。
4. 電源装置を元の状態に戻します。
5. 初めに外したネジで電源装置を固定します。

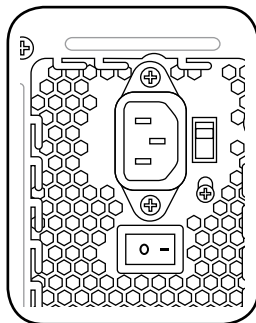


電源装置のケーブルは CPU/ケースファンと接触しないよう配線してください。

電圧セクター

電源装置の電源コネクタの隣には 115 V/230 V 電圧セクタースイッチが付いています。お使いのエリアの電圧に応じ、システム入力電圧を選択してください。

お使いのエリアの電圧が 100-127 V の場合は、115 V を選択します。200-240 V の場合は、230 V を選択します。日本の電源電圧は 100 V ですので、115 V を選択してください。

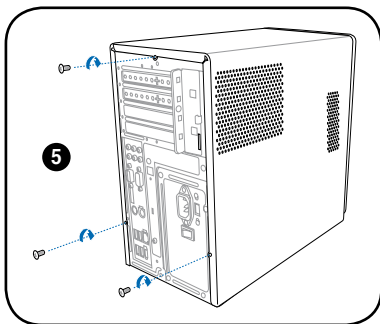
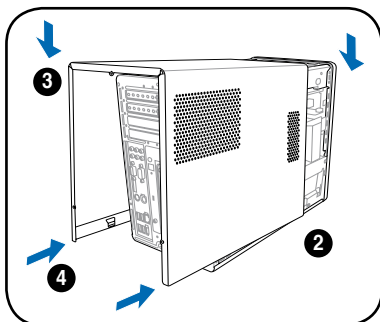


230 V のエリアで 115 V を選択すると、システムの故障の原因となります！

2.11 カバーを再び取り付ける

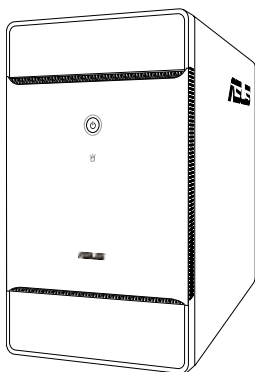
手順

1. 図のように、ケースを垂直に置きます。
2. カバー前部のエッジがフロントパネルカバーから5センチ以上離れるように被せます。カバータブをケースレールとフロントパネルタブにはめます。
3. 図のように、カバーのエッジ前面を下げます。
4. カバーを所定の位置まで、フロントパネル方向に押します。
5. 外した3本のネジでカバーを固定します。

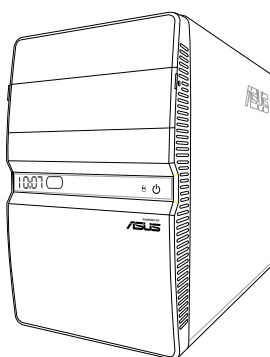


Chapter 3

システムの電源をオンにする方法、サポートCDからドライバやユーティリティをインストールする方法について。



T3-M3N8200



T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 / 赤外線 LED を搭載しています。

起動

3.1 OSをインストールする

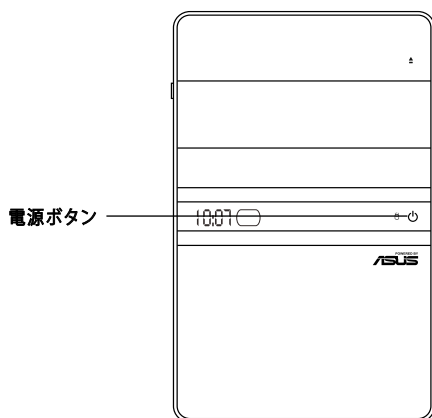
本ベアボーンシステムは、Windows® XP/Vista OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大に活用するために、OSを定期的にアップデートしてください。



ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。

3.2 起動する

電源ボタンはフロントパネル上にあります。システム電源ボタン (⏻) を押すと、OSが起動します。



Windows® 環境では、⏻ ボタンの動作はOSの設定により決定され、シャットダウン、再起動、スリープモード (S3) への切り替えなどを設定することができます。

3.3 サポート CD 情報

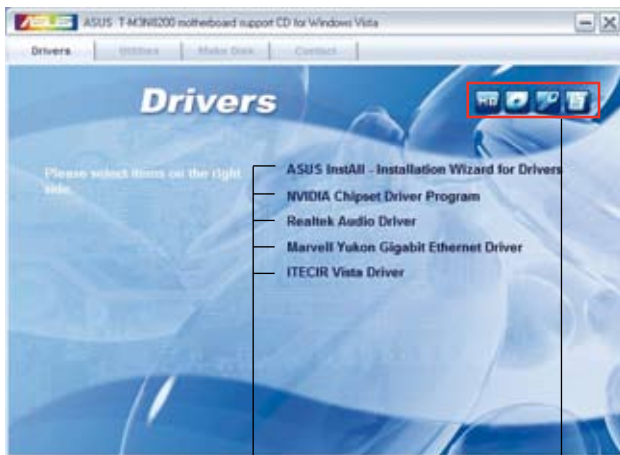
付属のサポート CD には、ソフトウェアや各種ユーティリティドライバが収録されています。



- 画面の表示内容及びドライバのオプションは、OS のバージョンにより異なる場合があります。
- サポートCDの内容は、将来予告なしに変更することがあります。更新版はASUS Webサイト (www.asus.co.jp) でお求めください。

3.3.1 サポートCDを実行する

サポートCDを光学ドライブに入れます。コンピュータでAutorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



インストールする項目を選択

その他の情報を表示



Autorun が有効になっていない場合は、サポートCDのBINフォルダからASSETUP.EXEを探してください。ASSETUP.EXEをダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

3.3.2 ドライバメニュー

ドライバメニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



ASUS InstAll - Drivers Installation Wizard

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

NVIDIA Chipset Driver Program

NVIDIA Chi drivers Program をインストールします。

Realtek Audio Driver

Realtek オーディオドライバをインストールします。

Marvell Yukon Gigabit Ethernet Driver

Marvell Yukon Gigabit Ethernet ドライバをインストールします。

ITECIR Vista Driver

ITECIR Vista ドライバをインストールします。



ITECIR Vista Driver の項目は、赤外線機能* (*オプション) を搭載したモデルでのみ表示されます。

3.3.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで利用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



ASUS InstAll - Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

ASUS Cool'n'Quiet Utility

ASUS Cool'n'Quiet ユーティリティをインストールします。

Marvell Yukon Gigabit VCT Application

Marvell Yukon VCT アプリケーションをインストールします。

ASUS PC Probe II

ファンスピードとCPU 温度、システム電圧を監視し、問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えばコンピュータを常に正常な状態に維持することができます。

ASUS Update

BIOS とドライバの アップデートが行えます。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。(詳細: ページ 5-8 参照)

Adobe Screen Saver

ASUS Screen Saver をインストールします。

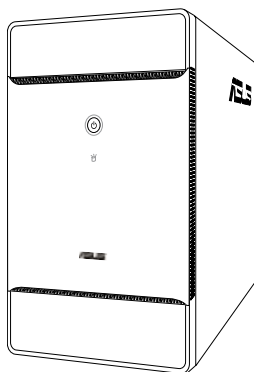
3.3.4 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーションが表示されます。

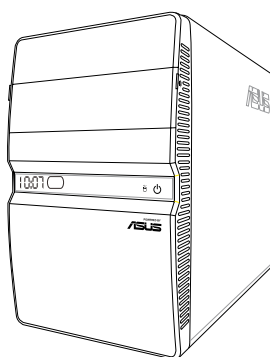


Chapter 4

付属のマザーボードについての情報と、マザーボードのレイアウト、ジャンパ設定、コネクタの位置などの説明。



T3-M3N8200



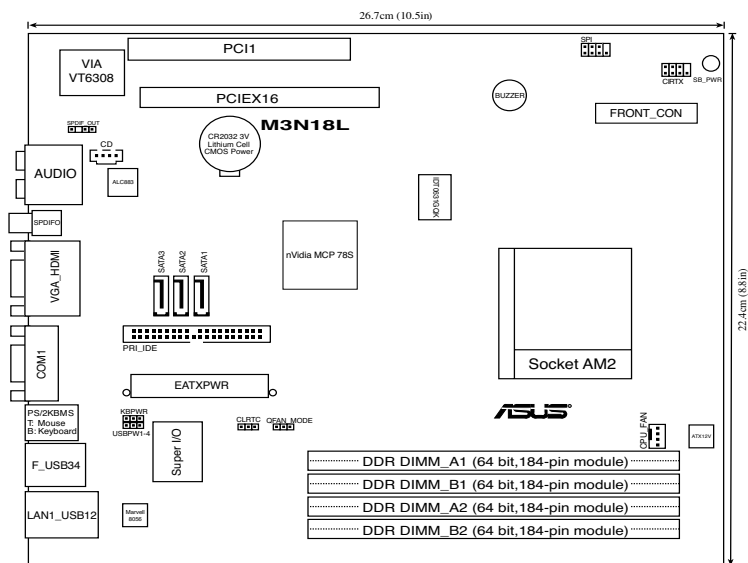
T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 / 赤外線 LED を搭載しています。

4.1 マザーボードの概要

ASUS T-シリーズ M3N8200 システムには マザーボードが実装されています。ここでは、技術的な情報やシステム構成について説明します。

4.2 マザーボードのレイアウト



4.3 ジャンパ

1. RTC RAMのクリア (CLRTC)

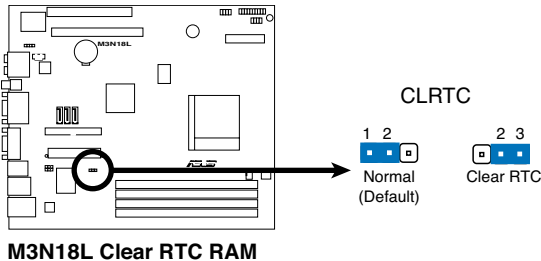
このジャンパは、CMOSのリアルタイムクロック (RTC) RAMをクリアするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。システムパスワードなどのシステム情報を含むCMOS RAMデータの維持は、マザーボード上のボタン電池により行われています。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. マザーボード上のボタン電池を取り外します。
3. ジャンパキャップをピン 1-2 (初期設定) からピン 2-3 に移動させます。5～10秒間そのままにして、再びピン1-2にキャップを戻します。
4. 電池を取り付けます。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。

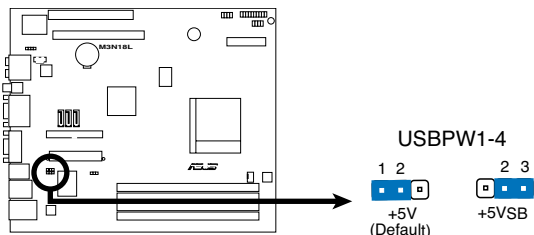


RTC RAM をクリアしている場合を除き、CLRTCジャンパのキャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



2. USB デバイスウェイクアップ (3ピン USBPW12、USBPW34)

USB デバイスを利用して、S1 スリープモード (CPU 停止、DRAM リフレッシュ、低電力モードでのシステム稼働) からウェイクアップするには、+5V に設定します。S3 と S4 スリープモード (CPU への電源供給がゼロの状態、スローリフレッシュ状態の DRAM、電力削減モード) からウェイクアップするには、+5VSB に設定します。



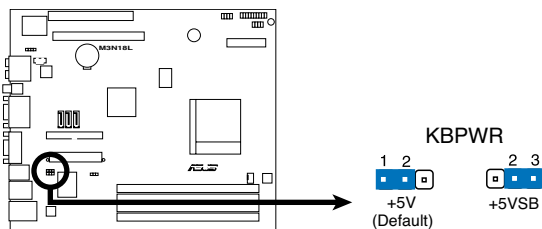
M3N18L USB Device Wake Up



- USB デバイスウェイクアップ機能には、各 USB ポート用の +5VSB リード線に 500mA の電流供給ができる電源装置が必要です。それ以外ではシステムはウェイクアップしません。
- 総消費電流は、通常の条件でもスリープモードでも、電源装置の能力 (+5VSB) を超過してはいけません。

3. キーボード電源 (3ピン KBPWR)

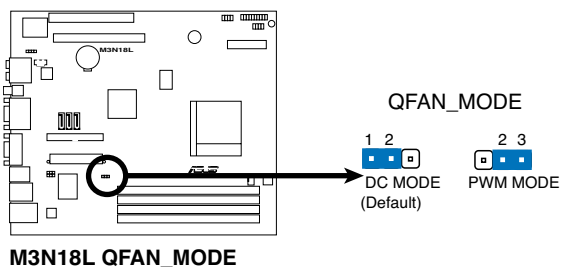
このジャンパはキーボードウェイクアップ機能の切り替え用のジャンパです。キーボードのキーを押してコンピュータをウェイクアップさせる場合は (初期設定はスペースバー)、このジャンパをピン 2-3 (+5VSB) にします。この機能には +5VSB リード線に最低 1A 供給可能な ATX 電源と BIOS 設定が必要です。



M3N18L Keyboard Power Setting

4. Q-ファンモード (3ピン QFAN_MODE)

4ピンCPUファンを使用している場合はこのジャンパを 1-2 (初期設定)に、3ピンCPUファンを使用している場合はこのジャンパを 2-3 に設定してください。

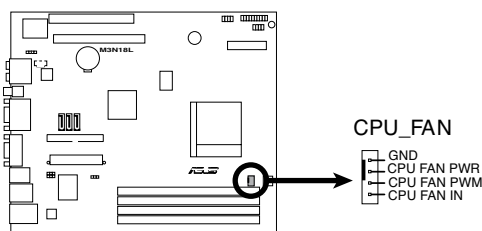


4.4 コネクタ

ここではマザーボード上の各コネクタについて説明します。

1. CPU ファンコネクタ (4ピン CPU_FAN)

ファンコネクタは、専用のCPU ファンをサポートしています。ファンケーブルをマザーボード上のファンコネクタに接続します。ケーブルの黒いワイヤがマザーボードのコネクタのアースピンに合うよう接続してください。



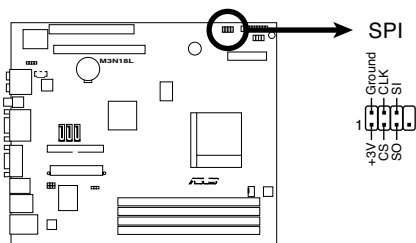
M3N18L CPU Fan Connector



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン(吸/排気ファン)を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けしないでください。

2. SPI コネクタ (8-1 ピンSPI)

SPI ROMを書きこむためのデバイスを接続します。



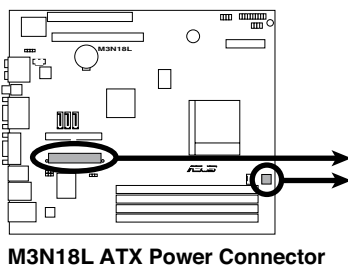
M3N18L SPI Connector

3. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、4ピン ATX12V)

電源装置の 24ピン電源プラグと 4ピン電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。

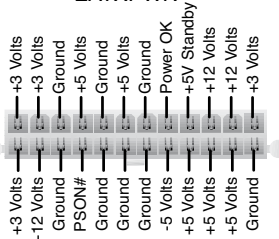


4ピン ATX12V 電源プラグをマザーボードの ATX12V コネクタに必ず接続してください。接続しないとシステムが起動しません。



M3N18L ATX Power Connector

EATXPWR

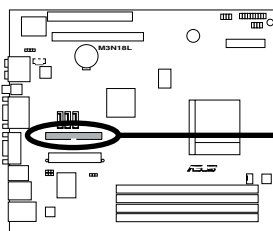


ATX12V



4. IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)

IDE 100/66 ケーブル用です。マザーボードのプライマリ IDE コネクタにはブルーを接続してください。



M3N18L IDE Connector

PRI_IDE



PIN1

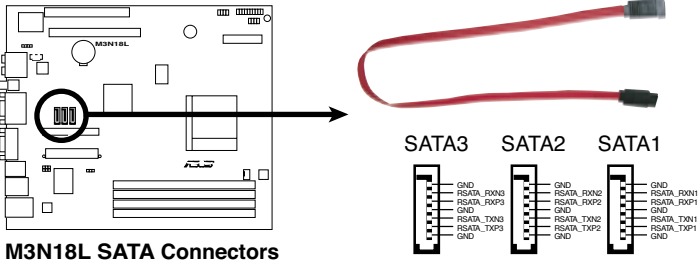
注意: IDEケーブルの赤いラインとPIN1の向きを合わせてください。



- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 100/66 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプのIDEケーブルを使用します。

5. Serial ATA コネクタ
(7ピン SATA1、SATA2、SATA3)

これらコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブに使用します。



これらコネクタを Standard IDE モードで使用する場合は、プライマリ(ブート用)ハードディスクドライブを SATA1/2 コネクタに接続します。推奨するSATA ハードディスクドライブ構成については、下の表をご参照ください。

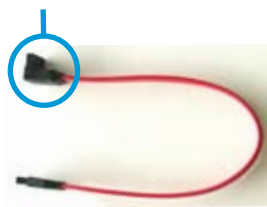
Serial ATA ハードディスクドライブ接続

コネクタ	カラー	設定	用途
SATA1/2	レッド	マスター	起動ディスク
SATA3	レッド	スレーブ	データディスク



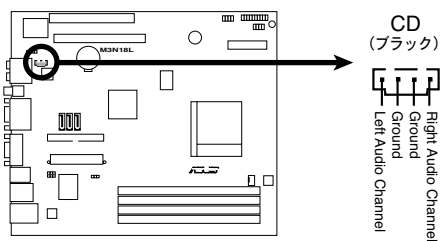
SATAケーブルの直角部分をSATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

直角部分



6. 光学ドライブオーディオコネクタ (4ピン CD)

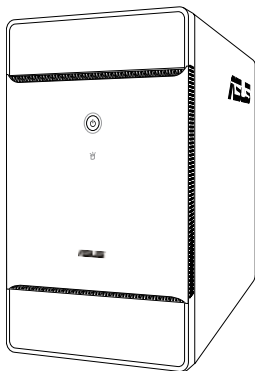
CD-ROM、TV チューナー、MPEG カード等のサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信します。



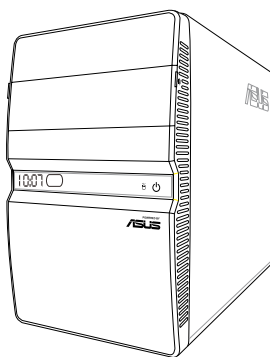
M3N18L Internal Audio Connector

Chapter 5

BIOSセットアップメニューでのシステム
設定、変更方法、BIOSパラメータの説明。



T3-M3N8200



T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 /
赤外線 LED を搭載しています。

5.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS EZ Flash** (POST中にフロッピーディスク、マザーボードサポートCDを使用してBIOSを更新)
2. **ASUS AFUDOS** (ブートフロッピーディスクを使用してBIOSを更新)
3. **ASUS CrashFree BIOS 3** (BIOS がダメージを受けた場合、ブートフロッピーディスク/サポート CD を使用して BIOS を更新)
4. **ASUS Update** (Windows® 環境でBIOSを更新)

各ユーティリティ詳細は関連項目をご参照ください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルをブートフロッピーディスクにコピーしてください。BIOS のコピーにはASUS Update または AFUDOS を使用します。

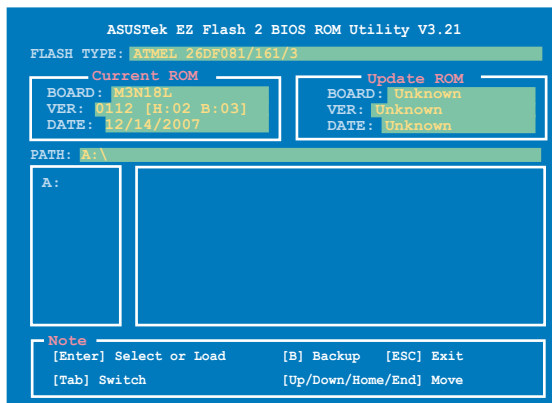
5.1.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はブートフロッピーディスクや DOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですの
で、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すことで起動
することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の
BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルをフロッピーディスクまたは USBフラッシュメモリに保存し、シス
テムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を 起動する方法には以下の2つがあります。
(1) BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク / USBフラッシュメモリを
フロッピーディスクドライブまたは USB ポートに挿入します。

POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択し
て <Enter> を押します。
4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が BIOS をアップデートし、システムが自
動的に再起動されます。



- **FAT 32/16** フォーマットのUSBフラッシュメモリ、フロッピーディスク等のデバ
イスのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。
システム起動エラーの原因となります。

5.1.2 AFUDOS

AFUDOS ユーティリティは、BIOS ファイルを保存したブートフロッピーディスクを使用して、DOS 環境で BIOS ファイルを更新します。また、このユーティリティで現在の BIOS ファイルをバックアップ用に保存しておくこともできます。

現在の BIOS をコピーする

AFUDOS ユーティリティを使用して現在の BIOS ファイルをコピーします。



- フロッピーディスクは書き込み可能なもので、ファイルを保存するために少なくとも 600 KB の空き容量が必要です。
- 説明で使用している BIOS の画面は一例です。実際の BIOS 画面とは、異なる場合があります。

1. マザーボードサポート CD 内に収録された AFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) を ブートフロッピーディスクにコピーします。
2. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

afudos /o[filename]

[filename]は自由に決めることができます。入力可能な名前は、8文字以下の英数字のファイル名と3文字の英数字の拡張子です。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.ROM
```

ファイル名 拡張子

3. <Enter>を押します。マザーボードの BIOS ファイルがフロッピーディスクにコピーされます。

```
A:\>afudos /oOLDBIOS1.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.
Reading flash ..... done
A:\>
```

BIOS ファイルがコピーされると、DOS プロンプトに戻ります。

BIOSファイルを更新する

AFUDOSユーティリティを使用してBIOSファイルを更新する手順

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードして、ブートフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名は紙などに書きとめてください。DOSプロンプトでBIOSファイル名を正確に入力する必要があります。

2. マザーボードサポート CD 内に収録されたAFUDOS ユーティリティ (afudos.exe) をブートフロッピーディスクにコピーします。
3. ブートフロッピーディスクからシステムを起動し、プロンプトで以下のように入力します。

```
afudos /i[filename]
```

[filename] は、BIOS ファイル名です。

```
A:\>afudos /iM3N18L.ROM
```

4. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。

```
A:\>afudos /iM3N18L.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19 (ASUS V2.07 (03.11.24BB))
Copyright (C) 2003 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash .... done
Search bootblock version
Advance Check.....
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOS の更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムエラーの原因となります。

5. BIOS の更新プロセスが完了すると、DOS プロンプトに戻ります。HDDからシステムを再起動してください。

```
A:\>afudos /iM3N18L.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.19(ASUS V2.07(03.11.24BB))
Copyright (C) 2003 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

WARNING!! Do not turn off power during flash BIOS
Reading file ..... done
Reading flash ..... done
Search bootblock version
Advance Check.....
Erasing flash ..... done
Writing flash ..... done
Verifying flash ... done

Please restart your computer

A:\>
```

5.1.3 ASUS CrashFree BIOS 3

ASUS CrashFree BIOS 3 は BIOS の自動復旧ツールで、BIOS 更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOS ファイルはサポート CD、または BIOS ファイルを保存したフロッピーディスク/サポート CD で更新することができます。



- このユーティリティを使用する前に、サポート CD または BIOS を保存したフロッピーディスクをお手元にご用意ください。
- フロッピーディスクに保存する、オリジナルまたは最新の BIOS ファイルの名前は「**M3N18L.ROM**」にしてください。
- 最新の BIOS は ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

USB フラッシュメモリから BIOS を復旧する

手順

1. BIOS ファイルを保存した USB フラッシュメモリを USB ポートにセットします。
2. システムをオンにします。
3. デバイスが検出されると自動的に BIOS ファイルを読み込み、BIOS の更新が開始されます。
4. 更新作業が完了したらシステムを再起動します。



- ASUS CrashFree BIOS 3 は FAT 32/16 フォーマットでシングルパーティションの USB フラッシュメモリのみをサポートします。デバイスサイズは 8GB 未満である必要があります。
- BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

フロッピーディスクからBIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. オリジナルまたは最新のBIOS ファイルを保存したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、フロッピーディスクの BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "M3N18L.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動してください。

サポート CD から BIOS を復旧する

手順

1. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認します。システムの電源をオンにします。
2. サポート CD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、フロッピーディスクの BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```

フロッピーディスクが検出されない場合、光学ドライブの BIOS ファイルが自動的にチェックされます。BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for CD-ROM...
CD-ROM found!
Reading file "M3N18L.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動させてください。



最新の BIOS は ASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

5.1.4 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- ・ マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- ・ インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- ・ 最新の BIOS ファイルに BIOS を更新する
- ・ インターネットから直接 BIOS を更新する
- ・ BIOS のバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート CD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート CD をセットします。ドライバメニューが表示されます。
2. **Utilities** タブをクリックし、「**ASUS Update**」をクリックします。詳細はページ 3-4 をご参照ください。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。



このユーティリティを使用して BIOS を更新する場合は、すべての Windows® アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「Update BIOS from the internet」を選択し、「Next」をクリックします。
3. 最寄りの ASUS FTP サイトを選択するか、「AutoSelect」をクリックし、「Next」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「**Next**」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



BIOSファイルからBIOSを更新する 手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「**Update BIOS from a file**」を選択し、「**Next**」をクリックします。



3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「**Open**」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。



5.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な Low-Pin Count (LPC) チップを搭載しており、「5.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用してBIOSの更新を行うことが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または「Run Setup」を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップのCMOS RAMに記録できるように、BIOS設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードの LPC チップにはBIOS設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間にキーを押すとBIOS 設定プログラムが起動します。

POST の終了後にBIOS 設定プログラムを実行したい場合は、以下の手順のいずれかを行うことでシステムを再起動します。

- OSのシャットダウン手順を利用した再起動
- <Ctrl+Alt+Delete>を押す
- ケースのリセットボタンを押す
- 電源ボタンを押してシステムをオフにし、それからまたオンにする



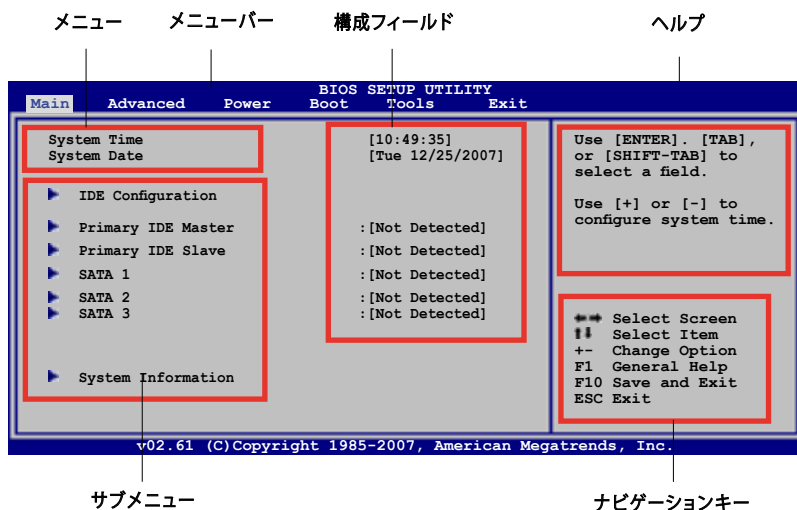
実行中のオペレーティングシステムからのリセットを強制する**電源ボタン、リセットボタン、<Ctrl+Alt+Delete>**キーの使用は、データ、システムに損傷を与える恐れがあります。常に、オペレーティングシステムから正しくシステムをシャットダウンすることをお勧めします。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールする、使用可能なオプションから設定を選択することができます。



- このマザーボードの BIOS の初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、Exit メニューの下に「**Load Setup Defaults**」を選択します。
(詳細は「**5.8 終了メニュー**」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS はASUS Web サイト(www.asus.co.jp)からダウンロードしてください。

5.2.1 BIOSメニュー画面



5.2.2 メニューバー

スクリーン上部のメニューバーには、次の項目があります。

Main	基本システム設定の変更用
Advanced	拡張システム設定の変更用
Power	拡張電源管理 (APM/ACPI) 設定の変更用
Boot	システム起動設定の変更用
Exit	終了オプションと初期設定値のロード用

メニューバーの項目を選択するには、キーボードの右または左の矢印キーを使って、項目をハイライト表示させます。

5.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されています。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

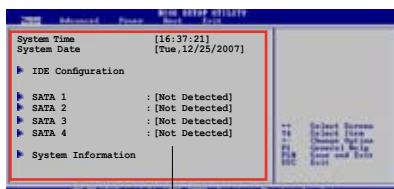


掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。

5.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目 (Advanced、Power、Boot、Exit) には、それぞれのメニューがあります。



メインのメニュー

5.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

5.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されています。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更することができます。ユーザーによる変更が可能でない項目は、選択することができません。

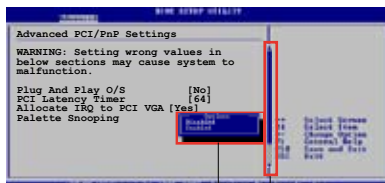
各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。詳細は「5.2.7 ポップアップウィンドウ」をご参照ください。

5.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し <Enter> を押すと、設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。

5.2.8 スクロールバー

設定項目が画面に収まりきらない場合は、スクロールバーがメニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キー、または <Page Up>/<Page Down> キーで、スクロールすることができます。



ポップアップウィンドウ

スクロールバー

5.2.9 ヘルプ

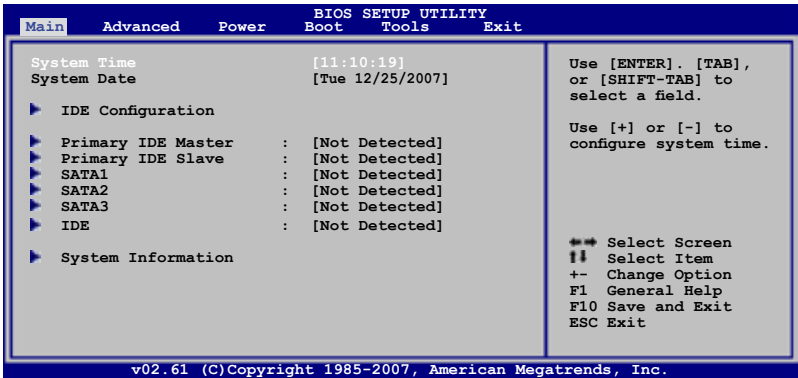
メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

5.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「5.2.1BIOS メニュー画面」をご参照ください。



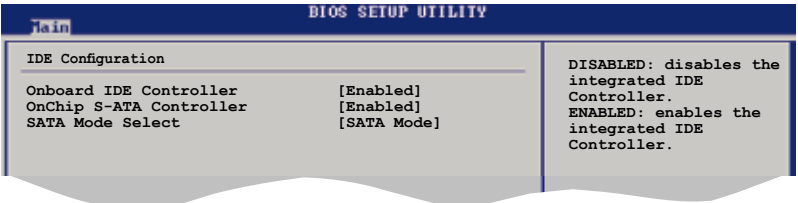
5.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

5.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

5.3.3 IDE Configuration



Onboard IDE Controller [Enabled]

オンボード IDE コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

OnChip S-ATA Controller [Enabled]

オンチップSATAコントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



次の各項目は「onChip SATA controller」を [Enabled] にすると表示されます。

SATA Mode Select [SATA Mode]

オンチップSerial ATAコントローラのモードを設定します。

設定オプション: [SATA Mode] [RAID Mode] [AHCI Mode]

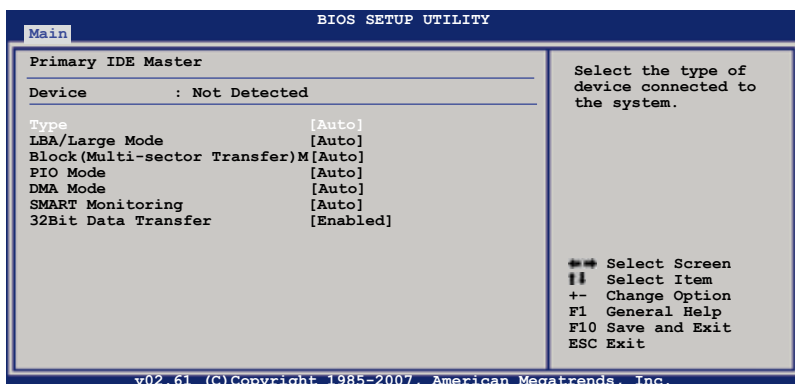


- NCQ機能搭載のSATA 3Gbps ハードディスクを使用する場合は、パフォーマンスの観点から、この機能を [AHCI] にすることをお勧めします。
- RAID 構築のため 2 SATA ハードディスクを使用する場合は、OSをインストールする前にこの機能を [Raid] に設定してください。

IDE デバイスの設定を変更します。設定を変更したい項目を選択し <Enter>を押します。

5.3.4 Primary and SATA IDE Master/Slave

セットアップ中に BIOS は自動的に IDE デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと IDE デバイスの情報が表示されます。



BIOSは、Device、Vendor、Size、LBA Mode、Block Mode、PIO Mode、Async DMA、Ultra DMA、SMART monitoring の各値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに IDE デバイスが接続されていない場合は N/A と表示されます。

Type [Auto]

IDEデバイスのタイプを選択します。[Auto]に設定すると、適切な IDE デバイスタイプを自動的に選択します。光学ドライブを接続している場合は[CDROM]を選択します。デバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかであれば、[ARMD] (ATAPI リムーバブルメディアデバイス)を選択します。

設定オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの設定。デバイスがこのモードをサポートしている場合、[Auto]に設定すると、LBA モードが有効になります。デバイスが LBA モードでフォーマットされていない場合は無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-Sector Transfer) M [Auto]

マルチセクタ転送の設定。[Auto]に設定すると、デバイスがマルチセクタ転送機能をサポートしていれば、デバイス間のデータ転送をマルチセクタで行います。[Disabled]に設定すると、デバイス間のデータ転送は1セクタごとに行います。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMA モードを設定します。

設定オプション: [Auto]

SMART Monitoring [Auto]

SMARTによる監視、分析、報告機能を設定します。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

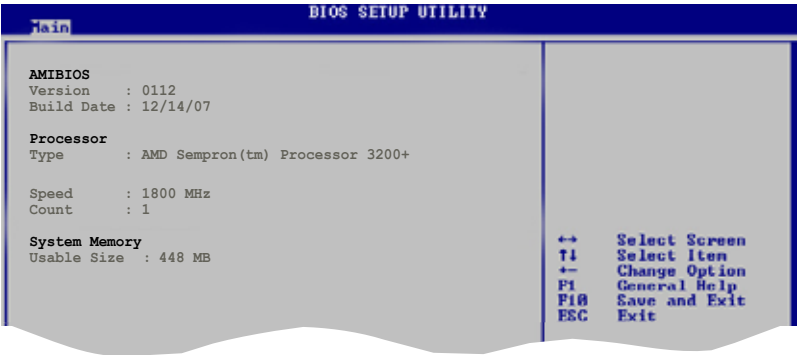
32Bit Data Transfer [Disabled]

32 bit データ転送を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.3.5 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。



AMI BIOS

自動検出された BIOS 情報を表示します。

Processor

自動検出された CPU の仕様を表示します。

System Memory

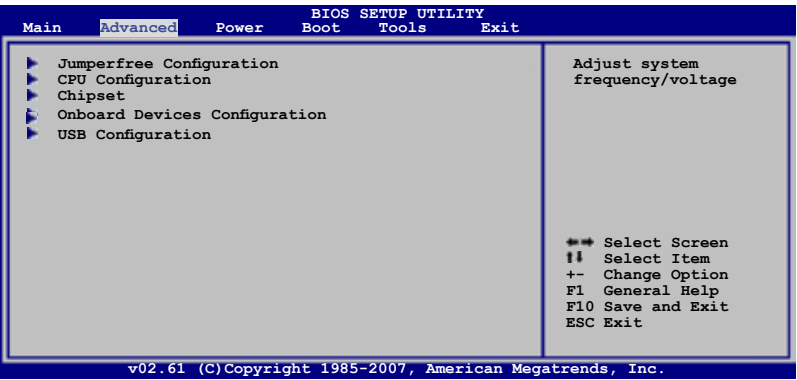
自動検出されたシステムメモリの容量を表示します。

5.4 拡張メニュー

CPUとその他のシステムデバイスの設定を変更します。

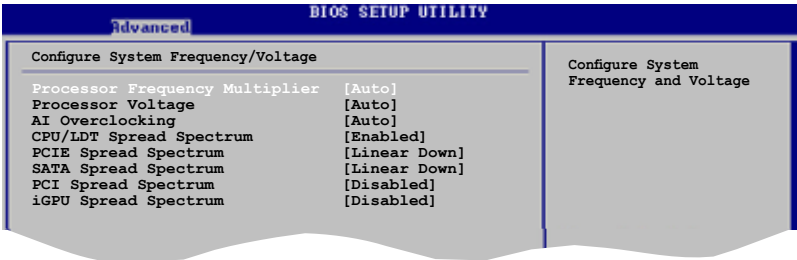


拡張メニューの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



5.4.1 Jumperfree Configuration

USBに関連する機能を設定します。項目を選択し<Enter>を押すと、設定オプションが表示されます。



Processor Frequency Multiplier [Auto]

CPU周波数を設定します。
設定オプション: [Auto] [x5.0 1000 MHz] [x5.5 1100 MHz] [Reserved] [x6.5 1300 MHz] [Reserved] [x 7.5 1500 MHz] [x8.0 1600 MHz] [x8.5 1700 MHz] [x9.0 1800 MHz] [x9.5 1900 MHz] [x10.0 2000 MHz] [x10.5 2100 MHz] [x11.0 2200 MHz] [x11.5 2300 MHz] [x12.0 2400 MHz]


Processor Voltage [Auto]

CPU電圧を設定します。
設定オプション: [Auto] [1.125 v] [1.150 v] [1.175 v] ...[1.475 v]

AI Overclocking [Auto]


CPU オーバークロックオプションを選択して、CPU 内部周波数を設定することができます。

Manual	オーバークロックの値を手動で設定します。
Auto	システムに対して最適な設定をロードします。
Standard	システムに対して標準的な設定にします。

 次の項目は、「AI Overclocking」の項目を [Manual] にすると表示されます。

CPU Frequency (MHz) [200.0]
CPU周波数を設定します。
設定オプション: [200.0] [201.0]~[299.0] [500.0]

PCI-Express Frequency (MHz) [100]
PCI Express 周波数を設定します。
設定オプション: [100] [101]~[107] [200]

 次の項目は、「AI Overclocking」の項目を [Manual] または [Standard] にすると表示されます。

Memory Voltage [Auto]

メモリの電圧を設定します。

設定オプション: [Auto] [1.920V] [2.013V] [2.085V] [2.178V] [2.259V] [2.353V]
[2.424V] [2.517V]

NB Voltage [Auto]

チップセットの電圧を設定します。

設定オプション: [Auto] [1.1V] [1.2V] [1.3V] [1.4V]

HT Over Voltage [Auto]

HTオーバーボルテージを設定します。

設定オプション: [Auto] [1.2V] [1.3V] [1.4V] [1.5V]

CPU Voltage Damper [Auto]

CPU電圧ダンパーを設定します。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [+100mV]

NB VDD Over Voltage [Auto]

NB VDD オーバーボルテージを設定します。

設定オプション: [Auto] [Disabled] [+100mV]

CPU/LDT Spread Spectrum [Enabled]

CPU/LDT スペクトラム拡散を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

PCIE Spread Spectrum [Linear Down]

PCIE スペクトラム拡散を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Linear Down]

SATA Spread Spectrum [Linear Down]

SATA スペクトラム拡散を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Linear Down]

PCI Spread Spectrum [Disabled]

PCI スペクトラム拡散を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Linear Down]

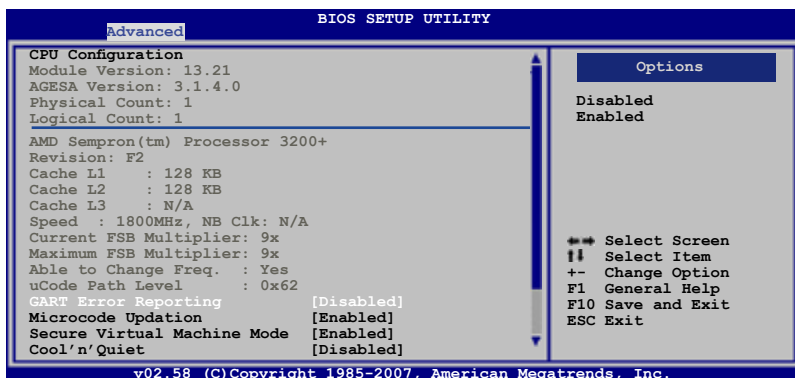
iGPU Spread Spectrum [Disabled]

iGPU スペクトラム拡散を設定します。

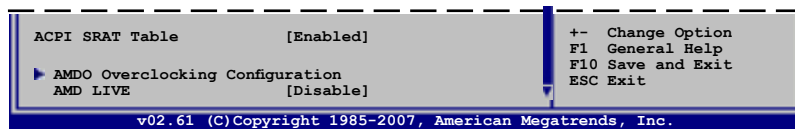
設定オプション: [Disabled] [1.00% Tri-Center] [2.00% Tri-Center] [3.00% Tri-Center]
[5.00% Tri-Center]

5.4.2 CPU の設定

BIOS が自動的に検出するCPU 関連の情報です。



矢印キー(↓)で画面の外にある項目を表示します。



GART Error Reporting [Disabled]

GART Error Reporting 機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Microcode Updation [Enabled]

マイクロコードアップデートを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Secure Virtual Machine Mode [Enabled]

Secure Virtual Machine モード(SVM)を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Cool 'n' Quiet [disabled]

AMD Cool 'n' Quiet テクノロジーを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

ACPI SRAT Table [Enabled]

ACPI SRAT (static resources affinity) 表を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

AMD Overclocking Configuration

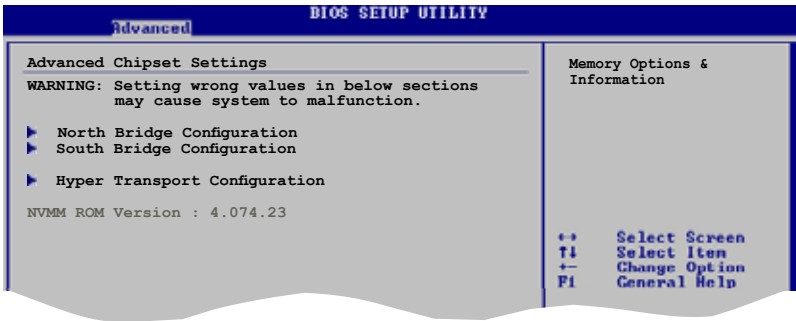
CPU周波数と電圧を設定します。(詳細:セクション 5.4.1 参照)

AMD Live

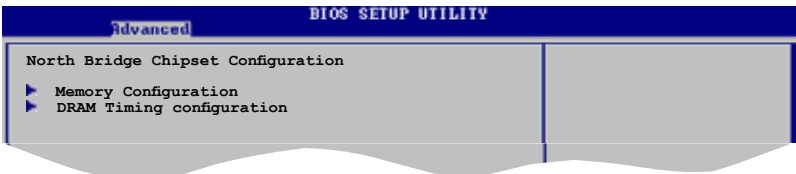
AMD Live 機能を設定します。

5.4.3 チップセット

チップセットの設定を変更します。項目を選択し、<Enter> を押すとサブメニューを表示させることができます。

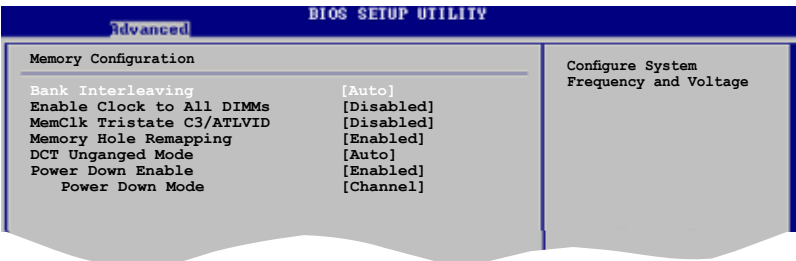


North Bridge Configuration



Memory Configuration

メモリの設定を変更します。



Bank Interleaving [Auto]

バンクメモリインターリーブを有効にします。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

Enable Clock to All DIMMs [Disabled]

有効にすると、ノースブリッジで生成した全ての DIMM クロックが全てのスロットに対して有効になります。無効にすると、DRAM を取り付けたスロットのみにノースブリッジからの DIMM クロックが有効になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

MemClk Tristate C3/ALTVID [Disabled]

C3 と Alt VID に入っている間の MemClk Tri-Statingを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Memory Hole Remapping [Enabled]

メモリホール周辺のメモリのリマッピングを設定xします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

DCT Unganged Mode support [Auto]

設定オプション: [Auto] [Always]

Power Down Enable [Enabled]

DDR パワーダウンモードを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



次の各項目は「Power Down Enable」を [Enabled] にすると表示されます。

Power Down Mode [Channel]

設定オプション: [Channel] [Chip Select]

DRAM Timing Mode [Auto]



Memory Clock Mode [Auto]

メモリクロックモードを設定します。

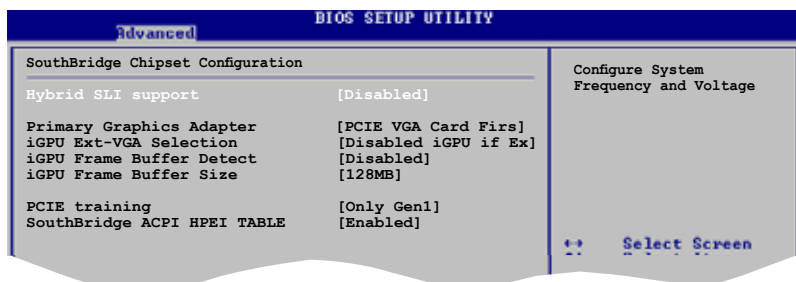
設定オプション: [Auto] [Always]

DRAM timing Mode [Auto]

DRAM のタイミングモードを設定します。

設定オプション: [Auto] [DCT0]

South Bridge Configuration



Hybrid SLI support [Disabled]

Hybrid SLI サポートを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Primary Graphics Adapter [PCIE VGA Card First]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックコントローラを設定します。

設定オプション: [PCI VGA Card First] [Internal VGA First] [PCIE VGA Card First]

iGPU and Ext-VGA Selection [Disabled iGPU if Ex]

ディスプレイに使用するVGAを、内部VGAまたは外部VGAから選択します。

設定オプション: [Disable iGPU if External VGA Card Exist] [Both Exist and iGPU] [by Frame Buffer detect]

iGPU Frame Buffer Detect [Disabled]

iGPU フレームバッファサイズ自動検出機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Auto]

iGPU Frame Buffer Size [128MB]

MCP78 共有メモリのサイズを表示します。

設定オプション: [32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

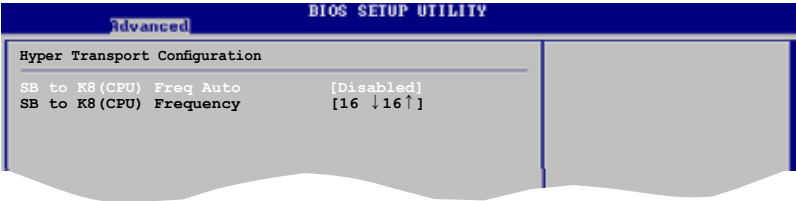
PCIE training [Only Gen1]

設定オプション: [Only Gen1] [Gen2 if supported]

SouthBridge ACPI HPEI TABLE [Enabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hyper Transport Configuration



SB to K8(CPU) Freq Auto [Disabled]

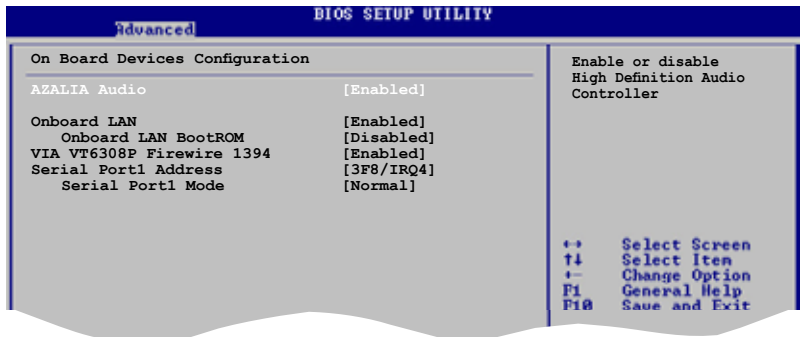
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SB to K8(CPU) Frequency [16 16]

サウスブリッジからK8 (CPU) へのリンク帯域を設定します。

設定オプション: [4 ↓ 4 ↑] [8 ↓ 8 ↑] [16 ↓ 16 ↑]

5.4.4 オンボードデバイス設定構成



AZALIA Audio [Enabled]

Azalia CODECを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Onboard LAN [Enabled]

オンボード LAN を設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Onboard LAN A Boot ROM [Disabled]

オンボードLAN A コントローラのオプションROMを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

VIA VT6308P Firewire 1394 [Enabled]

オンボード VIA VT6308P Firewire 1394 を設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

Serial Port1 ベースアドレスを選択します。

設定オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [2F8/IRQ4] [3E8/IRQ4] [2F8/IRQ3]

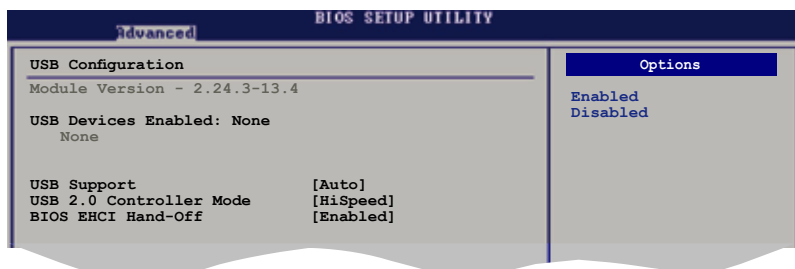
Serial Port2 Mode [Normal]

Serial Port2 用のBIOS選択モードを設定します。

設定オプション: [Normal] [IrDA] [ASK IR]

5.4.5 USB 設定

USB関連機能の変更をすることができます。項目を選択し<Enter>を押して設定オプションを表示させてください。



「Module Version」、「USB Devices Enabled」の項目には自動検出した値が表示されます。USB デバイスが検出されない場合は「None」と表示されます。

USB Support [Auto]

レガシーUSB デバイスの設定です。[Auto] に設定すると、起動時に USB デバイスを検出します。USB デバイスが検出されると、USBコントローラのレガシーモードが有効になり、検出されないとレガシー USB のサポートは無効になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

USB 2.0 コントローラのモードを設定します。HiSpeed (480 Mbps) または FullSpeed (12 Mbps) から選択します。設定オプション: [FullSpeed] [HiSpeed]

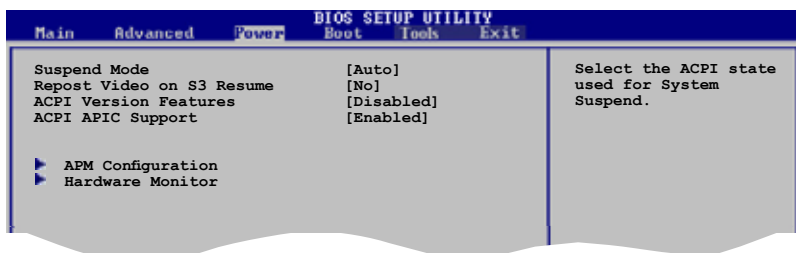
BIOS EHCI Hand-off [Enabled]

[Enabled]に設定することによって、EHCI ハンドオフ機能のない OS でも問題なく動作させることができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5 電源メニュー

ACPI と APM 機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



5.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムのサスペンドに使用される、ACPI の状態を選択します。

設定オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

5.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

S3/STR レジュームでVGA BIOS POSTを呼び出します。

設定オプション: [No] [Yes]

5.5.3 ACPI Version Feature [Disabled]

ACPI バージョン機能を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

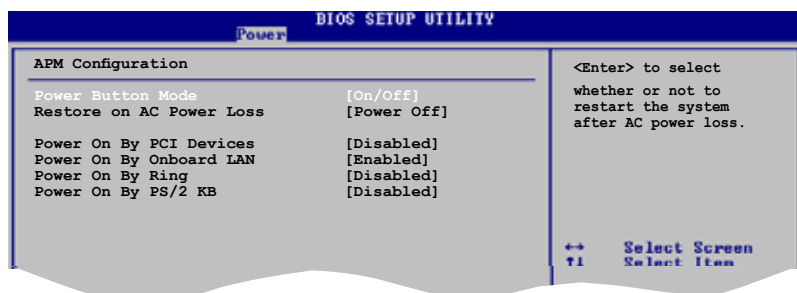
APIC が、ACPI をサポートするかどうかを設定します。[Enabled] に設定すると、ACPI 設定内のRSDT ポインタリストにAPIC テーブルのポインタが追加されます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



OSのインストール後は、ACPI APIC Support を変更しないでください。起動しなくなることがあります。

5.5.5 APM の設定



Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンのモードを設定します。

設定オプション: [On/Off] [Suspend]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

[Power Off] に設定すると、停電などで電力が遮断された場合に再通電時に電源をオフにします。また、[Power On] に設定すると、再通電時に電源をオンにします。[Last State] に設定すると、再通電時に、直前の電源状態に戻ります。

設定オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By PCI Devices [Disabled]

[Enabled] に設定すると、PCI 接続のLAN、モデムカードを通してシステムの電源をオンにすることができます。この機能は、+5VSB リード線で少なくとも 1A を提供するATX電源装置を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By Onboard LAN [Enabled]

オンボードLANによるウェイクアップ機能の有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By Ring [Disabled]

wake on Ring機能の有効/無効を切り替えます。

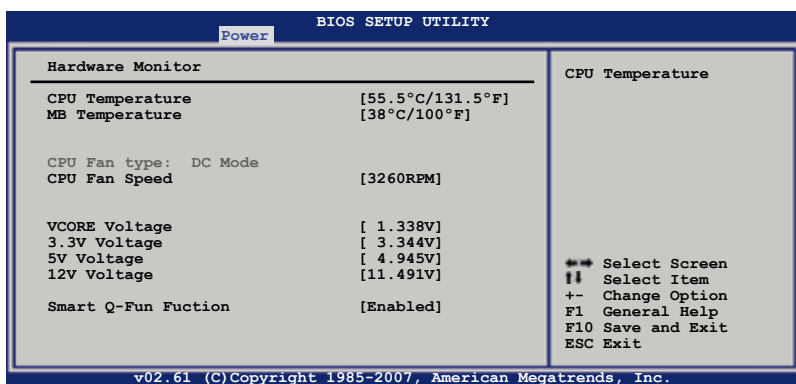
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 KB [Disabled]

[Enabled] に設定されている場合、PS/2キーボードによる起動が有効になります。この機能の利用には+5VSBラインに最低1A を供給できるATX電源が必要になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.5.6 ハードウェアモニタ



CPU Temperature [xxx°C/xxx°F]

MB Temperature [xxx°C/xxx°F]

オンボードハードウェアモニタは、マザーボードとCPUの温度を自動的に検出して表示します。[Disabled]にすると表示されなくなります。

CPU Fan Speed [xxxxRPM], [N/A], or [Ignored]

CPUファンスピードを自動的に検出して回転数/分 (RPM) の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには[N/A]と表示されます。

VCore Voltage、3.3V Voltage、5V Voltage、12V Voltage

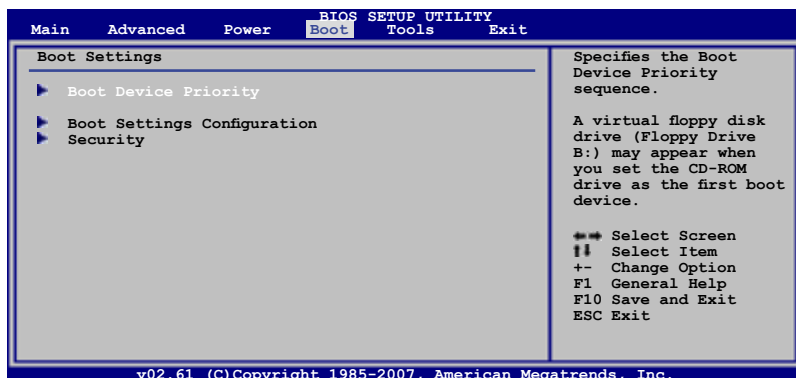
ハードウェアモニタが、VCore 電圧を自動的に検出して表示します。

Smart Q-Fun Function [Enabled]

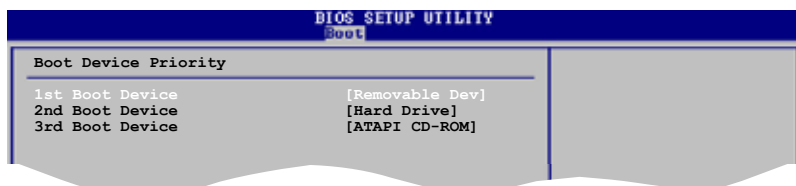
Smart Q-Fun 機能を設定します。

5.6 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



5.6.1 ブートデバイスの優先順位

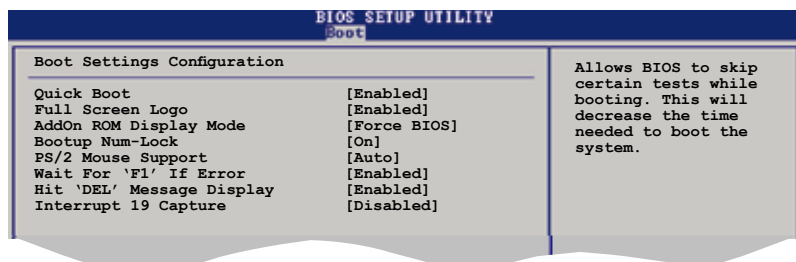


1st ~ xxth Boot Device [Removable Dev.]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション: [Removable Dev.] [Hard Drive] [ATAPI CD-ROM] [Disabled]

5.6.2 起動設定



Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

フルスクリーンロゴの表示/非表示を切り替えます
設定オプション: [Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo2™ 機能をご利用になる場合は「Full Screen Logo」の項目を [Enabled] に設定してください。

AddOn ROM Display Mode [Force BIOS]

オプション ROM に対するディスプレイのモードを設定します。
設定オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。
設定オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2マウスのサポートの有効/無効を切り替えます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

[Enabled] に設定するとシステムはエラー発生時に <F 1> キーを押すまで待機します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

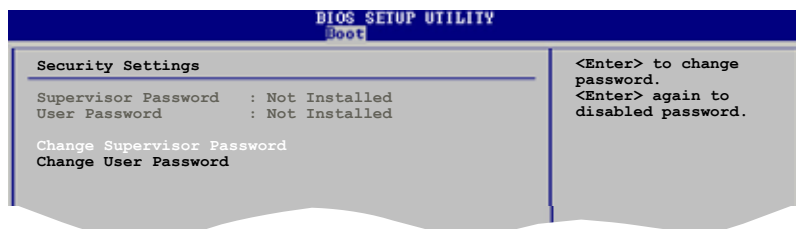
[Enabled] に設定すると、POST 中に「Press DEL to run Setup (Delete キーでBIOSメニューを表示)」というメッセージが表示されます。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled] に設定すると、オプションROM (SCSI や IDE RAID の BIOS等) が Int 19 を検出可能になります。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.6.3 セキュリティ

システムセキュリティ設定の変更。項目を選択し、<Enter> を押すと設定オプションが表示されます。



Change Supervisor Password

管理者パスワードの設定または変更を行います。管理者パスワードの設定または変更を行います。画面上部に表示されている「**Supervisor Password**」は、初期設定値は「**Not Installed**」になっています。パスワードを設定すると、「**Installed**」に変更されます。

管理者パスワードの設定手順

1. 「**Change Supervisor Password**」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「**password box**」で、6 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「**Password Installed**」というメッセージが表示されます。

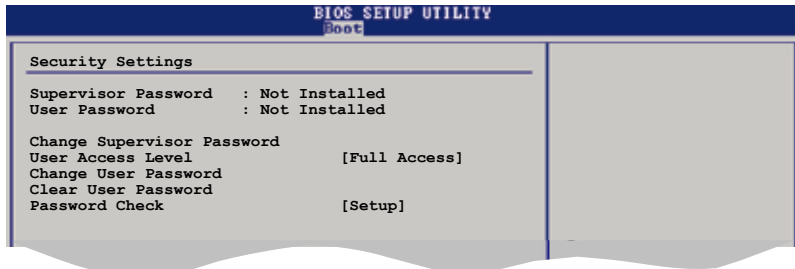
管理者パスワードを変更する場合は、設定と同じ手順に従います。

管理者パスワードの消去は、「**Change Supervisor Password**」を選択し、<Enter> を押します。消去すると「**Password Uninstalled**」というメッセージが表示されます。



管理者パスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック(RTC) RAM を消去してパスワードをクリアすることができます。RTC RAM を消去する方法については、「4.3 ジャンプ」のページをご参照ください。

管理者パスワードを設定すると、他のセキュリティ設定を変更するための項目が表示されます。



User Access Level [Full Access]

BIOSメニューへのアクセス制限の選択。

設定オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

[No Access]、BIOSメニューへのユーザーのアクセスを拒否します。

[View Only]、アクセスは許可しますが設定の変更はできません。

[Limited]、日時など、限られた設定のみを変更することができます。

[Full Access]、すべての項目を表示、変更することができます。

Change User Password

ユーザーパスワードの設定または変更をします。画面上部に表示されている「User Password」は初期設定値では「Not Installed」になっています。パスワードを設定すると、「Installed」に変更されます。

ユーザーパスワードの設定手順:

1. 「Change User Password」を選択し、<Enter>を押します。
2. 「password box」で、6 文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力します。

パスワードの設定が完了すると、「Password Installed」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードを変更する場合は、設定と同じ手順で行います。

Clear User Password

ユーザーパスワードをクリアします。

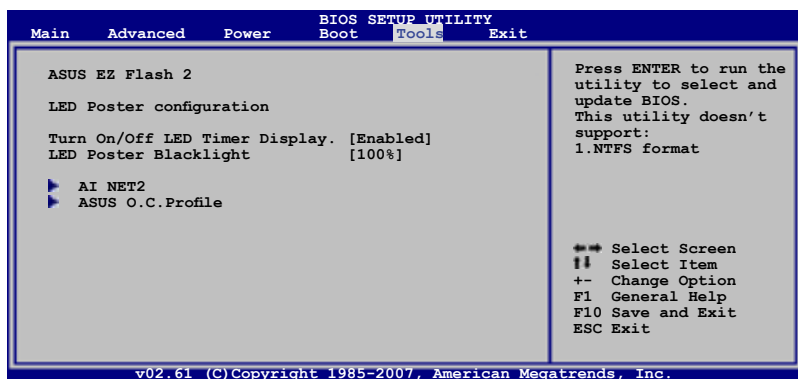
Password Check [Setup]

この項目を[Setup]に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[Always] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。

設定オプション: [Setup] [Always]

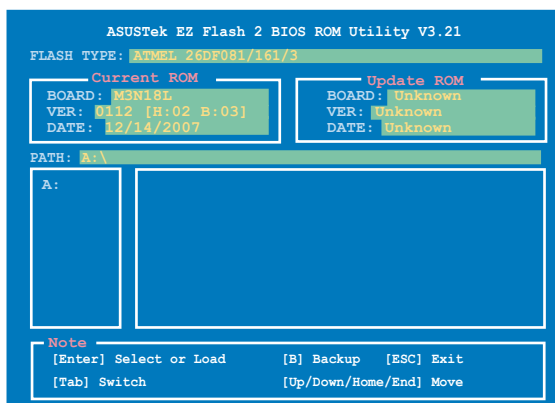
5.7 ツールメニュー

スペシャル機能のオプション設定をします。項目を選択し<Enter>を押してサブメニューを表示させます。



5.7.1 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [OK] または [Cancel] を選択し<Enter>を押して選択を決定します。



5.7.2 LED Poster Configuration



次の各項目は「LED Poster」を [LED DISPLAY] にすると表示されます。

Turn On/Off LED Timer Display [Enabled]

LED Timer Display 機能を設定します。

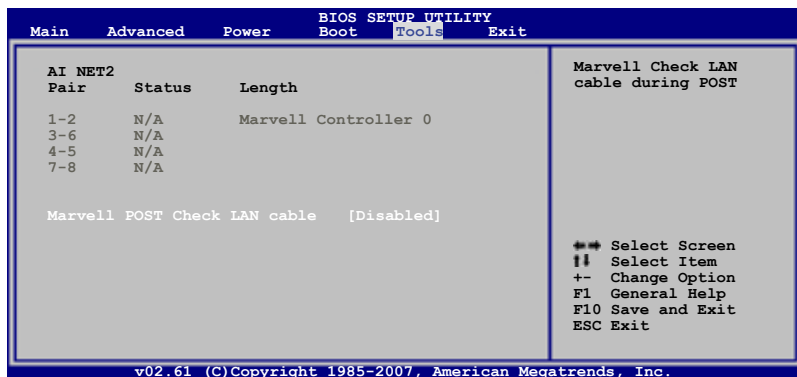
設定オプション: [Enabled] [Disabled]

LED Poster Backlight [100%]

LED Poster のバックライトを設定します。

設定オプション: [25%] [50%] [75%] [100%]

5.7.3 AI NET2



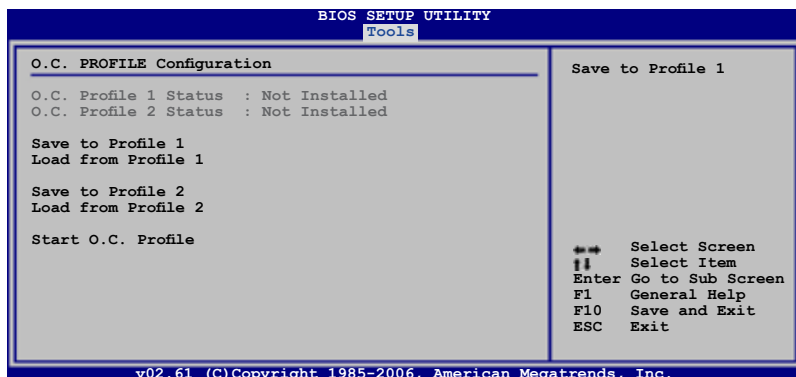
Marvell POST Check LAN Cable [Disabled]

Marvell LAN ケーブルをPOST中にチェックします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

5.7.4 ASUS O.C. Profile

複数の BIOS 設定を保存/ロードすることができます。



Save to Profile 1/2

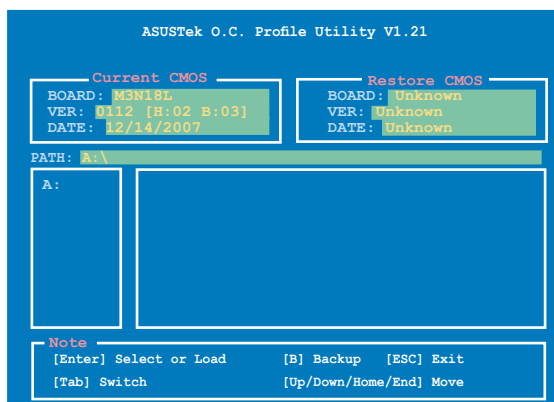
BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。

Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存した BIOS 設定をロードすることができます。<Enter> を押してファイルをロードしてください。

Start O.C. Profile

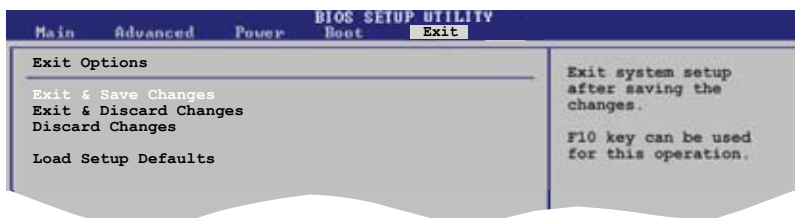
ユーティリティを起動して CMOS を保存、ロードします。<Enter> を押してユーティリティを起動します。



- USB フラッシュディスクやフロッピーディスクなどのデバイスを FAT 32/16 フォーマットでのみサポートします。
- BIOS の更新中はシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

5.8 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。Exit メニューからいずれかの項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOS の設定が終了したら、「Exit」メニューからこのオプションを選択し、設定を CMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでも BIOS の設定内容を保存します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに <ESC> で BIOS メニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存するかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は <Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOS メニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Discard Changes

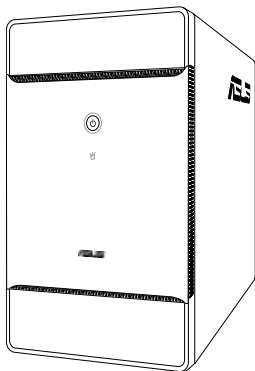
BIOS メニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復旧します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

Load Setup Defaults

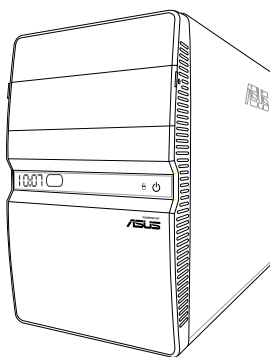
セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。「Exit & Save Changes」を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

参考

本システムがサポートしている電源装置
の規格について



T3-M3N8200



T4-M3N8200

* 特定のモデルのみが時間表示 /
赤外線 LED を搭載しています。

参考

A.1 電源装置の仕様

出力の特性

出力電圧	負荷の範囲		サージ (10ミリ 秒以下)	電圧変動範囲 (%)	リップルとノイズ	
	最小	最大			Vpp	Vpp & ノイズ
+5V	0.3A	18A		-5% ~ +5%	50mV	70mV
+3.3V	0.3A	16A		-5% ~ +5%	50mV	70mV
+12V1	1A	10A	12A	-5% ~ +5%	150mV	150mV
+12V2	1A	14A	18A	-5% ~ +5%	150mV	150mV
-12V	0A	0.3A		-10% ~ +10%	200mV	200mV
+5VSB	0.1A	2.5A		-5% ~ +5%	50mV	70mV

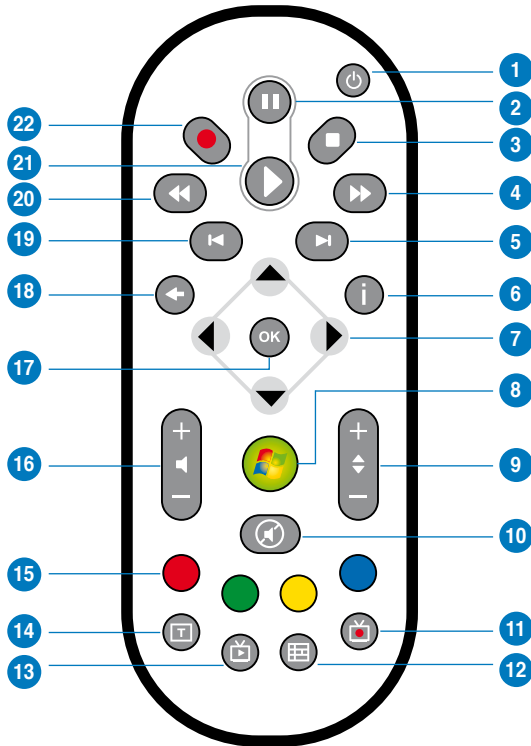
A.2 デバッグコード表

コード	説明
CPU	CPU のイニシエーション CMOS R/W 機能のテスト
CHIP	早期チップセット初期化: <ul style="list-style-type: none">- シャドウ RAM を無効化- L2 キャッシュを無効化- 基本チップセットレジスタをプログラム
ddr	メモリを検出 <ul style="list-style-type: none">- DRAM のサイズ、種類、ECC の自動検出- L2 キャッシュの自動検出
H A	ハードウェアモニターを初期化
SIO	1. Super I/O チップ用特殊キーボードコントローラのテスト 2. キーボードインターフェースを有効化
CL-	クロックジェネレータを初期化
USb	USB を初期化
PS2	PS/2 マウスを初期化
FAn	ファンのエラー
OS	ブート試行 (INT 19h)

A.3 Media Center リモコンを使用する(オプション)

リモコンを使用して Media Center プログラムを起動し、音楽や映画などのメディアファイルを再生することができます。また、外付けの TV ボックスを取り付け、TV を観る、TV 番組を録画することができます。

リモコンボタンの各機能については、以下の表をご参照下さい。



番号	ボタン	説明
1.	電源	スクリーンとスピーカーの電源をオン/オフにする
2.	ポーズ	再生を一時停止
3.	停止	メディアファイルの再生を停止

(次項に続く)

番号	ボタン	説明
4.	早送り	メディアファイルを早送りする
5.	次に進む	次のトラックに進む
6.	情報	Media Center または他のメニューオプションでプログラム情報を表示
7.	矢印キー	オンスクリーンディスプレイメニューをスクロール
8.	Windows® Media Center	Media Center プログラムを起動
9.	チャンネル変更	TV チャンネルを変更*
10.	ミュート	オーディオ出力を無効にする
11.	録画済み TV	録画した TV 番組のリストを表示*
12.	EPG (Electronic Program Guide)	電子番組ガイド画面を表示*
13.	ライブ TV	生放送の TV 番組を観る*
14.	シフト	数字入力とアルファベット入力を切り替える
15.	Teletext	ヨーロッパモデルでのみ利用可能
16.	音量調節	音量を調節
17.	OK	設定を実行
18.	リターン	前の画面に戻る
19.	1 つ前に戻る	前のトラックに戻る
20.	早戻し	メディアファイルを早戻しする
21.	再生	メディアファイルを再生
22.	録画	TV の録画を開始

*本システムは、内蔵 TV チューナーを搭載していません。TV 機能を利用する場合は、外付け TV ボックスをご購入ください。